

**札幌市中高一貫教育校設置  
基本構想**

**平成23年（2011年）3月**

**札幌市教育委員会**



## はじめに

札幌市における中高一貫教育の検討については、市立高校改革の一貫として検討をはじめました。平成12年に設置した「札幌市立高等学校教育改革推進協議会」からの答申に基づいて、平成15年2月に策定した「札幌市立高等学校教育改革推進計画」において、単位制や特色ある専門学科・コースの導入、新しいタイプの定時制高校の開校などの特色ある制度の導入と並んで、中高一貫教育の検討についても位置付けました。また、平成16年9月には、主に義務教育段階における札幌市の教育改革の方向性と施策を示す「札幌市教育推進計画」を策定し、この中で、「中高一貫教育校の設置に向けて検討を進める」ことを示しました。その後、保護者等へのアンケート実施や「札幌市中高一貫教育検討協議会」での協議及び同協議会からの答申に基づいた検討など、中高一貫教育校の設置については、時間をかけて議論を深めてきたところです。

以上の検討経過を踏まえた上で、札幌市が設置する中高一貫教育校には、市立高校の特色ある教育内容と中高一貫教育の特徴を融合させることで、「学びの場の更なる充実」を図るとともに、中学校と高校の教員が一体となって学校運営や学習指導等を行い、中学校と高校を含めた3者が、様々な成果を共有し、互いに高めあう取組を推進することで、校種を越えた学校間連携の一層の促進を図ろうとするなどのねらいがあります。

加えて、現在、市立学校全体で「自立した札幌人の育成」を目指し、札幌らしい特色ある学校教育を進めており、中高一貫教育校の、6年間の計画的・継続的な教育を展開できるという特徴を生かして、体験を重視した課題探究型の学習や札幌を教材とした学習を行うことなどで、札幌らしい特色ある学校教育を更に推進していくことが可能であると考えています。

中等教育の対象となる13歳から18歳の時期は、肉体的にも精神的にも変化の著しい期間であり、大人となる基礎を培う重要な時期です。この時期を一貫して見守り育てる公立の中高一貫教育校を選択肢の1つとして市民の方々に提供することは、中等教育の多様化を推進し、生徒一人ひとりの個性をより重視した教育の観点から、重要な意義があると考えています。

今後、本基本構想に基づき、魅力ある学校づくりを進めて参りますので、今後ともご理解とご協力を何卒よろしくお願いいたします。

平成23年3月

札幌市教育委員会

# 札幌市中高一貫教育校設置 基本構想 <目次>

## I 中高一貫教育校の設置について

- 1 中高一貫教育の制度 ..... P 1
- 2 札幌市における検討経過 ..... P 2
- 3 札幌市における中高一貫教育校設置について ..... P 3

## II 育てたい生徒像と改編対象校について

- 1 育てたい生徒像 ..... P 5
- 2 育てたい力とはぐくみたい心 ..... P 6
- 3 改編対象校選定の考え方 ..... P 7

## III 中高一貫教育校の教育内容等

- 1 中高一貫教育の特徴を生かした教育内容 ..... P 9
- 2 発達段階に応じた指導区分の設定及び単位制の導入 ..... P 1 5
- 3 他の中学校・高校との教育成果の共有 ..... P 1 6
- 4 魅力ある学校づくりに向けた取組 ..... P 1 7

## IV 中高一貫教育校設置の枠組

- 1 設置形態 ..... P 1 8
- 2 学校規模 ..... P 1 8
- 3 通学区域 ..... P 1 8
- 4 開校時期 ..... P 1 9
- 5 入学者の決定方法 ..... P 1 9
- 6 中高一貫教育校設置に伴う移行期間 ..... P 1 9

## V 中高一貫教育校の施設整備の考え方

- 1 施設整備の基本的な考え方 ..... P 2 1
- 2 開校までの施設整備のスケジュール（予定） ..... P 2 1

## VI 課題・留意点への対応等

- 1 課題・留意点への対応 ..... P 2 2
- 2 今後の進め方 ..... P 2 4
- 3 評価と検証 ..... P 2 4

資料編 ..... P 2 6

概要版 ..... P 3 8

## I 中高一貫教育校の設置について

### 1 中高一貫教育の制度

#### (1) 中高一貫教育制度の導入

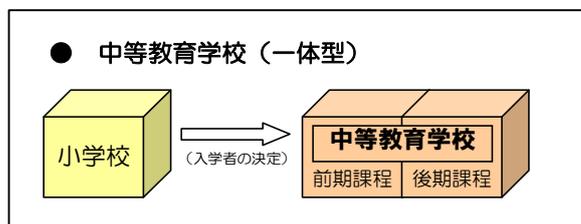
中高一貫教育は、現在の中学校・高校の制度に加えて、生徒や保護者が6年間の一貫した教育課程や学習環境の下で学ぶ機会を選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化を推進し、生徒一人ひとりの個性をより重視した教育の実現を目指すものとして、学校教育法の改正などにより制度化され、平成11年4月から、選択的に導入することが可能となりました。

#### (2) 中高一貫教育校の形態と特色

中高一貫教育校には、生徒や保護者のニーズ、地域の実態等に応じて、設置者が適切に対応することができるように、中等教育学校（一体型）、併設型中学校・高校及び連携型中学校・高校の3つの形態があります。なお、中高一貫教育校には、その特徴を生かして、一般の中学校及び高校以上に特色ある教育課程の編成が可能となるよう、文部科学省告示において教育課程の基準の特例<sup>注1</sup>が定められています。

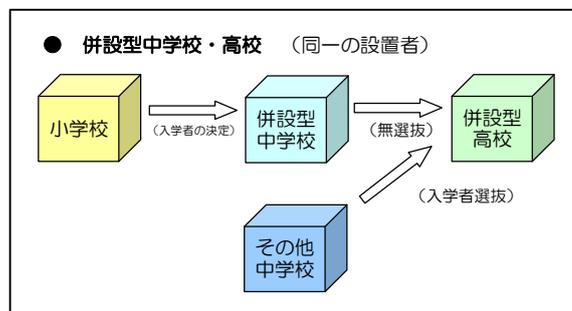
#### ア 中等教育学校（一体型）

前期課程（中学校段階）と後期課程（高校段階）が1つの学校として6年間一体的に中高一貫教育を行うもので、前期課程から後期課程への移行時には選抜試験がありません。また、他の中学校からの後期課程への入学枠はありません。



#### イ 併設型中学校・高校

高校の入学選抜を行わずに同一の設置者による中学校と高校を接続するもので、併設する中学校から高校に進学する者のほかに、高校入学枠を設け、入学選抜を行って、他の中学校からの進学者も受け入れることができます。

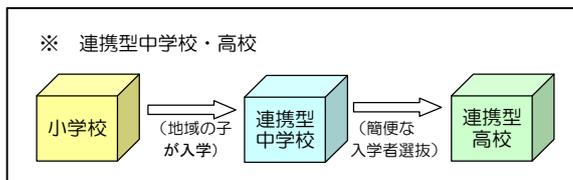


注1 教育課程の基準の特例（詳細は資料1参照）

中高一貫教育校においては、中学校段階で選択教科をより幅広く導入することができることなどの特例が認められています。また、このうち、中等教育学校、併設型中学校・高校については、加えて、中学校段階と高校段階との指導内容の入れ替えや、高校段階から中学校段階への指導内容の移行、中学校段階から高校段階への指導内容の移行ができる特例が認められています。

## ウ 連携型中学校・高校

既存の市町村立中学校と都道府県立高校などが、教育課程の編成や教員・生徒間交流等の面で連携を深める形で中高一貫教育を実施する形態です（なお、連携型は通常、市町村の1つ又は複数の中学校の卒業生の大半が、1つの高校へ進学することを前提とした形態であり、札幌市の場合適当ではないと考えられます。）。



## 2 札幌市における検討経過

札幌市教育委員会においては、平成12年から検討を開始し、平成15年に策定した、市立高校改革の基本的な指針である「札幌市立高等学校教育改革推進計画」において、生徒の個性を尊重し、多様な選択肢を提供して「学びの場の充実」を図ることを目的に、単位制や特色ある専門学科・コースの導入、新しいタイプの定時制高校の開校などを計画するとともに、中高一貫教育校の設置についてもこの一環として検討することとしています。また、平成16年に策定した、主に義務教育段階における教育改革の方向性と施策を示した「札幌市教育推進計画」においても、中高一貫教育校の設置について検討を進めることとしています。

平成19年には、中高一貫教育校に対するニーズを把握することを目的に児童生徒・保護者にアンケートを実施し、平成20年5月には、学識経験者、教職員、PTA、公募市民からなる「札幌市中高一貫教育検討協議会」を設置し、これまでの教育委員会における検討状況や協議会委員による視察等を踏まえた議論を1年間にわたり行い、平成21年5月に「中高一貫教育校の設置に向けた具体的な検討を行っていくことが望ましい」旨の答申がまとめられています。

### <札幌市における検討経過>

- ・平成12年8月 学識経験者、教職員、PTA、市民（以下「学識経験者等」）からなる「札幌市立高等学校教育改革推進協議会」を設置
- ・平成14年3月 「新世紀を展望した魅力ある札幌市立高等学校のあり方について」（答申）
- ・平成15年2月 「札幌市立高等学校教育改革推進計画」策定
  - ※ 単位制や特色ある専門学科の導入、新しいタイプの定時制高校の設置、中高一貫教育校の検討などを計画に位置付け
- ・平成16年9月 「札幌市教育推進計画」策定
  - ※ 「中高一貫教育校の設置に向けて検討を進める」旨を記載
- ・平成19年2月～3月 「中高一貫教育に関する調査（児童生徒・保護者アンケート）」実施
- ・平成20年2月 「札幌市における中高一貫教育のこれまでの検討について」を公表
- ・平成20年5月 学識経験者等からなる「札幌市中高一貫教育検討協議会」を設置
  - ※ 諮問事項『札幌市における中高一貫教育の必要性とその望ましいあり方』
- ・平成21年5月 「札幌市における中高一貫教育のあり方について」（答申）
  - ※ 「設置に向けた具体的な検討を行っていくことが望ましい」旨の答申

### 3 札幌市における中高一貫教育校設置について

札幌市における中高一貫教育校の設置については、「札幌市中高一貫教育検討協議会」からの答申を踏まえ、札幌市教育委員会において具体的な検討を進めてきたところです。

中等教育の対象となる13歳から18歳の期間は生徒にとって心身の成長や変化が著しい時期であり、現行の中学校3年間と高校3年間に区分する現在の制度は、中学校卒業段階で生徒が自らの能力や適性、興味・関心、進路希望等を踏まえ、主体的に高校を選択できるなど、大きな利点と意義が認められています。

これに対し、中高一貫教育は、以下のような特徴のある制度です。

#### ★ 中高一貫教育の特徴

- ◆ 高校入試がないことなどによる時間的余裕を活用するとともに、6年間を見通した柔軟な教育課程の編成を行うことなどが可能となる「**6年間を通した学びの連続性**」
- ◆ 現行の中学校・高校に比べ、幅広い異年齢集団が共に学習したり、様々な活動を行ったりすることが可能となる「**幅広い異年齢集団による学び合い**」
- ◆ 中学校・高校の期間を通した6年間の学校生活において、様々な体験や教育活動の中で生徒が繰り返す試行錯誤をじっくり見守り、支援することが可能となる「**6年間にわたる見守り**」

こうした特徴を生かすことで、これまで以上に特色を持った学習環境を提供することが可能であり、そういった環境で、より個性を伸ばし、豊かな人間性や健やかな体がはぐくまれていくこととなる子どもたちも想定され、私立に加え、公立の中高一貫教育校という新たな選択肢を提供することは、中等教育の多様化を推進するとともに、市立高校改革が目指す「学びの場の更なる充実」につながるものと考えます（平成19年に実施したアンケート調査において、約70%の保護者が公立の中高一貫教育校に関心を示し、約58%の保護者が入学をさせたいと回答。）。

加えて、中学校と高校の教員が日常的に協力して教材研究や学習指導を行うことができる中高一貫教育校が、中学校と高校の橋渡しを行い、中高一貫教育校を含めた3者が、様々な成果を共有し、互いに高めあう取組を推進することにより、校種を越えた学校間の連携を一層促進することにつながり、札幌市における中等教育の一層の充実を図っていくことができると考えられます。

以上のことから、本「基本構想（案）」第2章以降に記載する内容に基づき、札幌市立の中高一貫教育校を設置することとします。

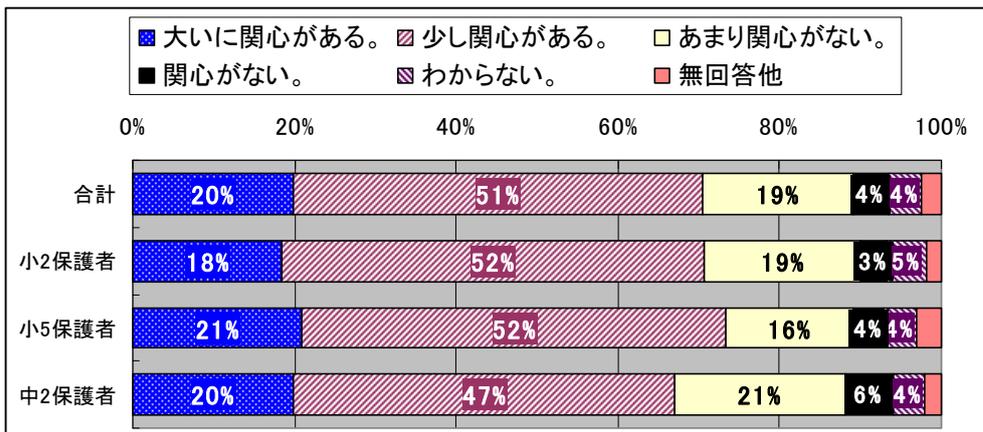
なお、中高一貫教育校の設置に当たっては、少子化の進展による中学校卒業生数の減少を考慮し、新たに学校を増設するのではなく、既存の市立高校をその特色ある教育をベースに発展的に改編します。

<参考>「中高一貫教育に関する調査（アンケート）平成19年2～3月実施」より抜粋

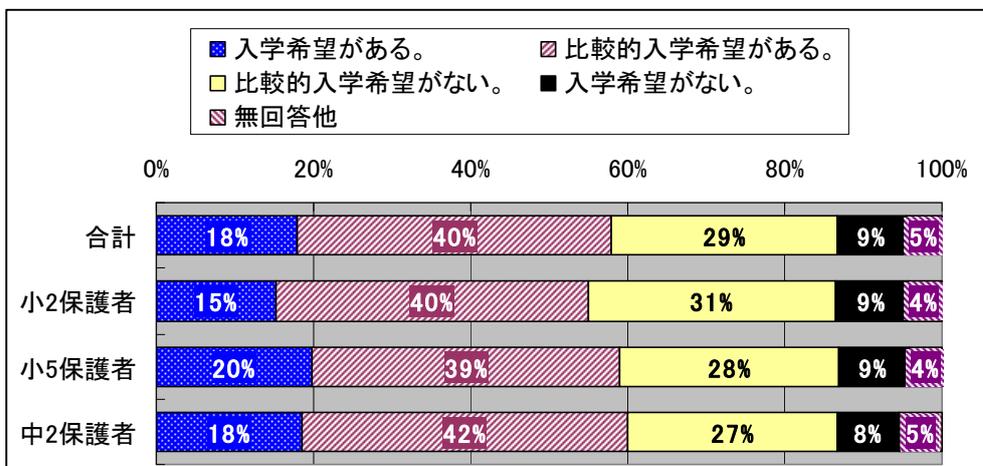
札幌市教育委員会では、中高一貫教育の検討を進めるに当たって、前述のとおり平成19年2～3月に札幌市内の小2、小5、中2の保護者等に対しアンケートを実施しました（回収率82.8%、回収数2,620）。

保護者は、総じて中高一貫教育校に高い関心を示し、また、市立の中高一貫教育校に期待する教育は、『大学進学を重視した教育』の割合は低く、『進路を主体的に考える教育』や『興味関心等に幅広く対応した教育』、『豊かな人間性をはぐくむ教育』の割合が高いという結果でした。

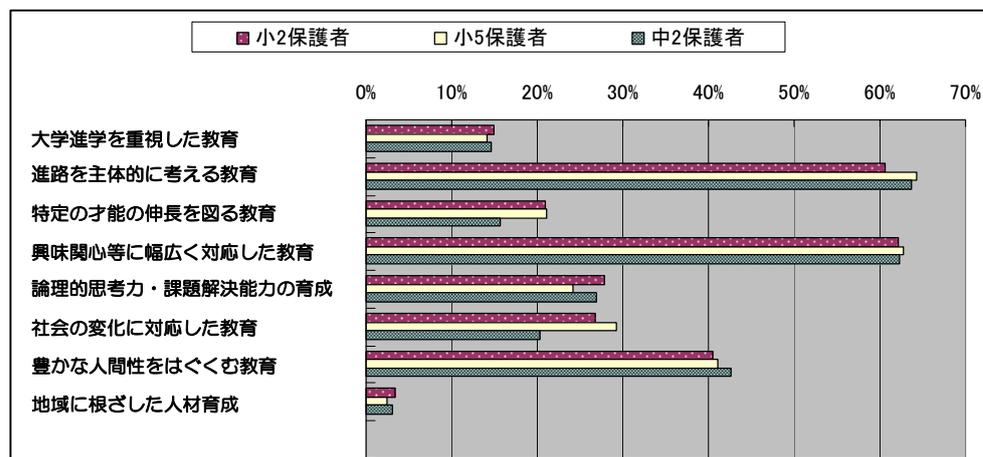
Q：公立の中高一貫にどの程度関心があるか



Q：市立の中高一貫教育校に入学させたいか



Q：市立の中高一貫教育校に期待する教育は何か



## Ⅱ 育てたい生徒像と改編対象校について

札幌市教育委員会では、21世紀の札幌市の教育推進の方向性を示す「札幌市教育推進の目標及び指針」を策定するとともに、それを受けて、各学校において取り組むべき内容として、「札幌市学校教育の重点」を示しています。

この「札幌市学校教育の重点」において、“学ぶ力の育成”、“豊かな心の育成”、“健やかな身体の育成”、“信頼される学校の創造”を学校教育の4つの柱と位置付けるとともに、「札幌らしい特色ある学校教育」の展開という観点から、“雪”、“環境”、“読書”をテーマとした学習活動などを推進することとしています。これらの取組により、「ふるさと札幌」に根ざした豊かな感性や人間性、生涯にわたる学びの基盤を身に付け、自ら学び、自ら考えるなどの「生きる力」を培い、心の中に「ふるさと札幌」の意識を持ちながら、将来の札幌を支えたり、世界で活躍したりするような「自立した札幌人」の育成を目指しています。

中学校と高校の時期は、生徒にとって自己を確立し、大人となる基礎を培う重要な時期です。この時期に、生徒一人ひとりが自己の在り方や生き方を考え、将来の進路を主体的に選択する能力や態度を身に付けるとともに、社会についての認識を深めること、学習を通じて能力や個性の一層の伸長と自立を図ること

と、様々な体験活動や課外活動等の中で学校内外の多くの人と出会いながら自らを高めていくことなどは、生涯にわたる学習の基盤の形成にとって不可欠の過程でもあります。

また、近年、科学技術の高度化や情報化、グローバル化が急速に進み、こうした社会の急激な変化に対応するために、自ら課題を見つけ考える力、柔軟な思考力、身に付けた知識や技能を活用して未知の問題や複雑な課題を解決する力、他者を受容し関係を築く力など、豊かな人間性を含む「総合的な知性」がますます必要とされており、各個人が自立した一人の人間として現代社会を生きていくために、生涯にわたって生徒自身が主体的に学び続けていくことが求められています。

こうした現代の教育に求められているものなどについても考慮しつつ、これまでの中高一貫教育に関する検討内容を踏まえて、札幌市で設置する中高一貫教育校における「育てたい生徒像」、「育てたい力とはぐくみたい心」、を次のように整理したうえで、改編対象校を選定しました。

### 1 育てたい生徒像

6年間の連続した学びを生かして、札幌で学んだというアイデンティティを持ちながら、将来の札幌や日本を支え国際社会で活躍する、知・徳・体のバランスのとれた「自立した札幌人」を育てます。

#### 札幌らしい特色ある学校教育キャラクター<sup>注2</sup>



ちっきゅん  
(環境)



ゆっぼろ  
(雪)



おっほん  
(読書)

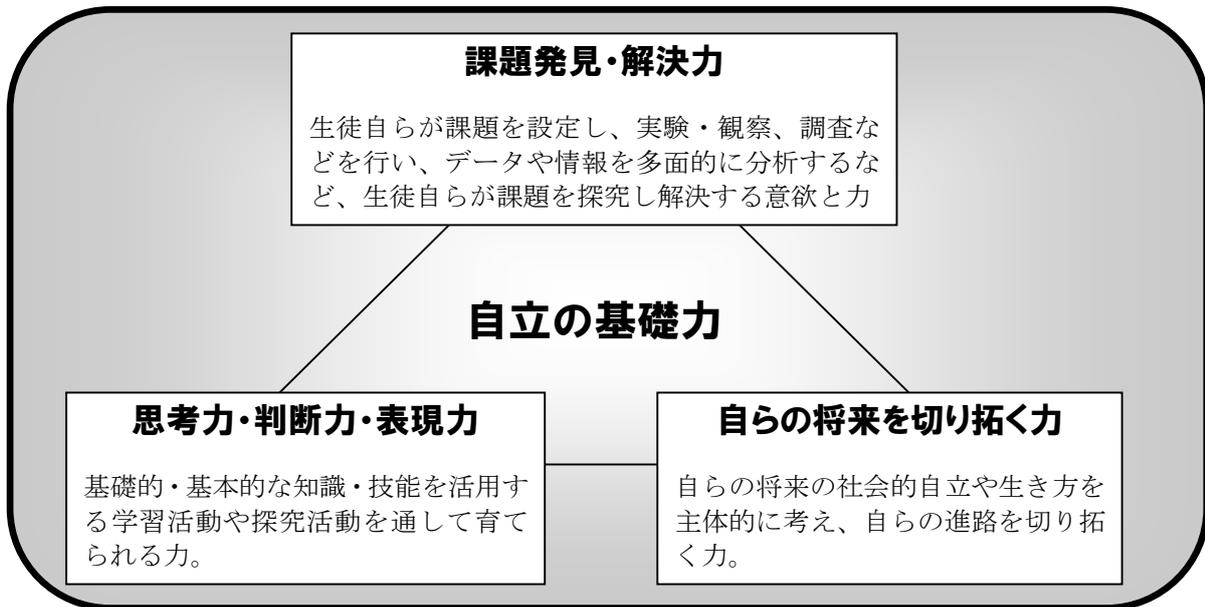
<sup>注2</sup> 札幌らしい特色ある学校教育キャラクター

子どもたちが「札幌らしい特色ある学校教育」の【雪】【環境】【読書】にかかわる学習に親しみをもって取り組めるよう、札幌らしい特色ある学校教育キャラクターの作成を、札幌平岸高等学校デザインアートコースに依頼するとともに、キャラクター名を市立幼稚園・学校の子どもたちから募集して決定しました。

## 2 育てたい力とはぐくみたい心

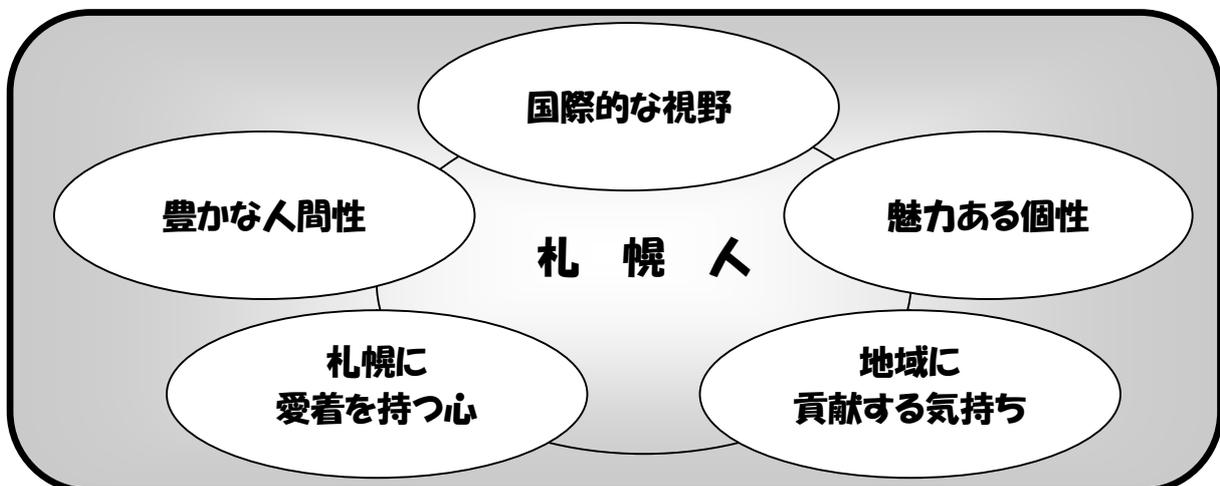
### (1) 育てたい力

生徒の「なぜだろう」という素朴な疑問から出発し、生徒自らが課題を設定し、多面的に物事を捉えたり、情報を収集・分析し評価したりすることなどを通して、**課題発見・解決力**や**思考力・判断力**を育てるとともに、考察した内容をまとめ、それを発表したり討論するなど、ともに学ぶ仲間と高め合う取組を通して、豊かな**表現力**を育てます。また、各教科の学習や特別活動等を通じて、自らの将来の社会的自立や生き方を主体的に考え、**自らの将来を切り拓く力**を育てます。これらの力を育てることにより、変化の激しい現代社会を力強く生きていくための**自立の基礎力**を育てます。



### (2) はぐくみたい心

地域の大人や世界の人々、異年齢の子どもたちとの交流をはじめとする多様な社会体験や自然体験を通して、他人を思いやる心、感動する心などの**豊かな人間性**や**魅力ある個性**、**国際的な広い視野**とともに、**札幌に愛着を持つ心**や**地域に貢献する気持ち**をはぐくみます。



### 3 改編対象校選定の考え方

改編対象校については、「6年間を通した学びの連続性」などの中高一貫教育の特徴を生かすことで、将来の札幌を支え国際社会で活躍する自立した札幌人を育成することに加え、現在進めている特色ある教育内容が発展・充実する市立高校であることが条件であると考えます。

また、中高一貫教育校には、小学校卒業段階から生徒が入学し、多感な6年間を過ごすこととなり、在学中に様々な進路希望が生じることが予想されることから、改編対象校は、こうした生徒の多様なニーズに対応し、文系・理系を問わず生徒一人ひとりの進路希望に対応した多様な学びのできる教育内容であることが適当であると考えます。

こうした観点から改編対象校を考えたとき、市立高校の特色ある取組の中で、開成高校のコズモサイエンス科は、実験・観察・体験を重視した学習を通して豊かな科学的教養や論理的思考力、発信型の英語力を身につけ、将来、様々な分野において、将来の札幌を支え国際社会で活躍する人材の育成を目指しており、中高一貫教育校に改編することで、自然科学をはじめ社会科学・人文科学を表す広い意味の「サイエンス」を、より深くバランスよく学ぶことが可能となることから、これまで以上に特色ある教育を推進し、生徒の多様な進路希望にも対応可能であると想定されます。

#### ? コズモサイエンスって？（学校紹介パンフレットから抜粋）

COSMOS【読み：コスモス、意味：宇宙】やCOSMOPOLITAN【読み：コスモポリタン、意味：国際人】を表すCOSMO（コスモ）という造語と、自然科学をはじめ社会科学・人文科学を表す広い意味のSCIENCE（サイエンス）を組み合わせ創ったことば。この学科の方向性を示しています。

加えて、改編対象校選定に当たっては、札幌市内全域からのアクセスの観点や施設整備に伴う財政的観点についても考慮する必要があります。

#### ◆ アクセスの観点

通学区域については、中高一貫教育を望む市内の児童に対して公平に入学の機会を提供するため、札幌市内全域を通学区域とします。よって、改編対象校は、全市から通学しやすい交通利便地に立地し、特に、積雪寒冷地である札幌市においては、冬期間の通学を考慮すると、積雪の影響を受けにくい地下鉄駅から徒歩圏内にあることが望ましいと考えます。

#### ◆ 施設整備に伴う財政的観点

既存の市立高校を中高一貫教育校に改編することから、中学校の教育課程に対応するための教室整備（技術関係諸室等）や中学校段階への給食提供のための給食配膳室の整備など一定程度の増改築が必要となります。施設整備に伴う費用対効果を勘案すると、新しい校舎に増築・一部改修を実施するか、または、改築時期が近づいている校舎の全面改築を実施することが望ましいと考えます。

以上のことから、札幌市が設置する中高一貫教育校の改編対象校として最もふさわしい市立高校は、開成高校であると考えます（想定される教育内容についてはP 9以降に記載）。

なお、改編に当たっては、校名や校歌の継承を含め、改編対象校の伝統を踏まえつつ、新しい学校づくりを進めていくことを考えています。

<参考>各市立高校（定時制課程を除く）における特色ある教育内容等一覧

	教育の特色	アクセス	校舎の 築年数 (平成22年 4月時点)
旭丘高校	○ 単位制 未来志向で物事を展望し、社会課題や学問研究に対する興味 関心を持った幅広い教養を身につける観点から単位制を導入	最寄の地下鉄 駅からバス	8年
開成高校	○ コズモサイエンス科（1学年2学級） 実験・観察・体験を重視した論理的思考力の育成を目指した 探究型の学習や発信型の英語力の育成を推進	最寄の地下鉄 駅から徒歩	47年
藻岩高校	○ 環境教育 各教科における「環境」をテーマとした学習や環境にやさし い学校祭など、環境を柱とした学習活動を展開	最寄の地下鉄 駅からバス	36年
清田高校	○ グローバルコース（1学年1学級） ネイティブスピーカーを積極的に活用するなどして、高度な 英語力を育てるとともに、異文化体験による豊かな国際感覚を 育成	最寄の地下鉄 駅からバス	33年
新川高校	○ フロンティア・エリア制（平成21年度入学生より実施） 2学年次から3学年次にわたり段階的なエリアに分かれて、 高大連携を生かした各エリア独自の学校設定科目を学習し、「社 会人基礎力」等を育成	最寄の地下鉄 駅からバス	31年
平岸高校	○ デザインアートコース（1学年1学級） 様々な分野の外部専門家による講義や実習を行い、専門的な 技術の習得やアートやデザインを読み解く力を育成	最寄の地下鉄 駅から徒歩	30年
啓北商業 高校	○ 未来商学科 社会の要請に対応した商業教育の観点から、情報活用能力の 育成を重視するとともに、2年生から会計コース、情報コース、 国際コースを設定し、幅広い進路に対応できる教育課程を編成	最寄の地下鉄 駅からバス	29年

### Ⅲ 中高一貫教育校の教育内容等

#### 1 中高一貫教育の特徴を生かした教育内容

中高一貫教育では、6年間の継続的な学びや幅広い異年齢集団による学び合いなどの特徴を生かし、実験・観察を重視した課題探究的な学習や、ボランティア活動、部活動をはじめ、様々な体験的活動などに、継続的にじっくり取り組むことができます。

札幌市が設置する中高一貫教育校においては、開成高校コスモサイエンス科の教育内容と中高一貫教育の特徴を融合させ、特色ある教育内容を実施することが可能であり、探究心に富んだ生徒やじっくり考えることが向いている生徒に対して、更に充実した学びの場を提供するとともに前述の「自立した札幌人」の育成を目指していきます。

#### ★ 中高一貫教育の特徴（再掲）

- ◆ 高校入試がないことなどによる時間的余裕を活用するとともに、6年間を見通した柔軟な教育課程の編成を行うことなどが可能となる「6年間を通した学びの連続性」
- ◆ 現行の中学校・高校に比べ、幅広い異年齢集団が共に学習したり、様々な活動を行ったりすることが可能となる「幅広い異年齢集団による学び合い」
- ◆ 中学校・高校を通した6年間の学校生活において、様々な体験や教育活動の中で生徒が繰り返す試行錯誤をじっくり見守り、支援することが可能となる「6年間にわたる見守り」

#### ★ 開成高校コスモサイエンス科の取組

##### ① 自然科学系の教養の充実及び課題探究的な学習の重視と発信型の英語力の育成

##### ◎ 課題探究的な学習とその目的

課題探究的な学習とは、設定した課題を解決するプロセスをなぞっていく学習手法。

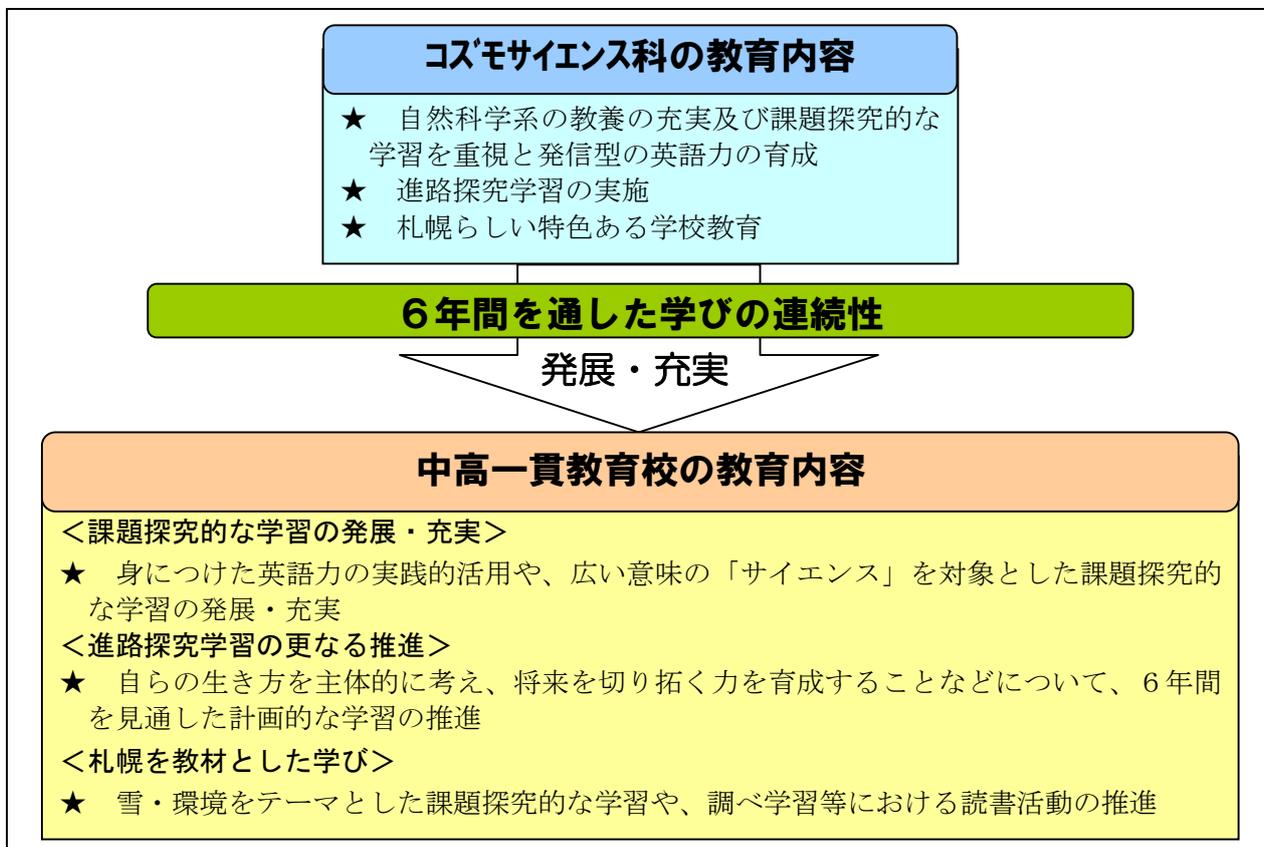


こういった、多面的に物事を捉えるなどの作業を通して、思考力や判断力、表現力と併せて、生徒自らが課題を探究し解決する手法を身に付けさせ、課題発見・解決力を育てることを目的にしています。

- 体験的な学習を重視し、生物や地学分野における野外観察などの実体験をさせる学習を通して、知的好奇心を喚起しながら、生徒自らが課題を発見し、考え、解決する場を提供するとともに、大学での先端科学技術の授業など「ほんもの」に触れる機会を提供しています。
  - 科学的教養、論理的思考力、表現力を用いてレポートをまとめるとともに、1・2年合同発表会を開き、発表能力の育成を図っています。
  - 様々な事柄について、英語で得た情報に基づいて、プレゼンテーション等を行い、発信型の英語力を養うほか、「世界に通じる英語力の育成」を目指し、速読やエッセイライティングなど、将来世界で活躍する際に必要となるスキルを育成しています。
- ##### ② 進路探究学習の実施
- 自分自身を発見し、将来の生き方・進路について考えさせるため、職場体験等の体験学習や社会人や卒業生の講話を聞く機会などを設けています。
- ##### ③ 札幌らしい特色ある学校教育（環境を題材とした学習）
- 専門科目「環境科学」において、自然・人間・社会のことを科学的に学び、実習や調査なども行ないながら、解決の糸口を生徒自ら探る学習を実施しています。

(1) 「6年間を通した学びの連続性」を生かした取組

高校入試がないことなどによる時間的余裕を活用するとともに、6年間を見通した柔軟な教育課程の編成によって、学習効果を高めることができます。



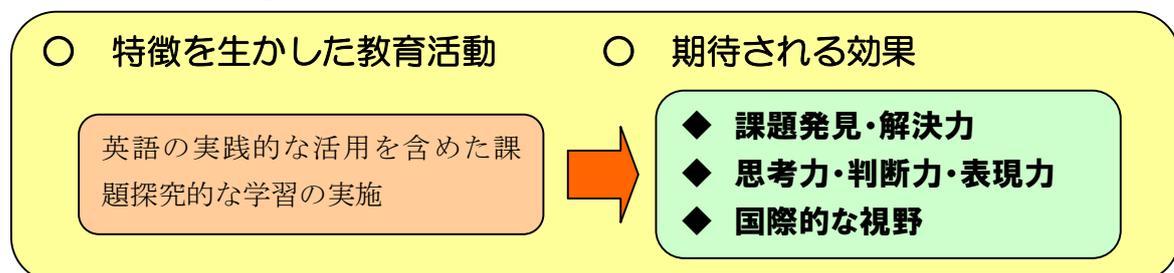
ア 課題探究的な学習の発展・充実

6年間じっくりと課題探究的な学習に取り組むことができる環境を生かして、その中で発信型の英語力の活用を図りながら、課題探究的な学習全般の発展・充実を図ります。

<展開例>

- ・ 中学校段階から高校段階を見据えた課題探究的な学習に取組み、必要な技能や姿勢を身につけることで、高校段階で先端の科学技術などより高度な課題を探究する学習に挑戦する意欲と力を育てることが可能になります。
- ・ 重点的に学ぶ発信型の英語力は、6年間をかけることで、他国の異なる文化や環境問題など地球規模の課題について、英語で発表したり、ディスカッションしたりすることができるレベルにまで高められるので、課題探究的な学習の幅がグローバルに広がります。

※ コズモサイエンス科の方向性を示す、自然科学をはじめ社会科学・人文科学を表す広い意味の「サイエンス」を、深くバランスよく学ぶことが可能に！



＜参考＞習得・活用・探究の学習スパイラル

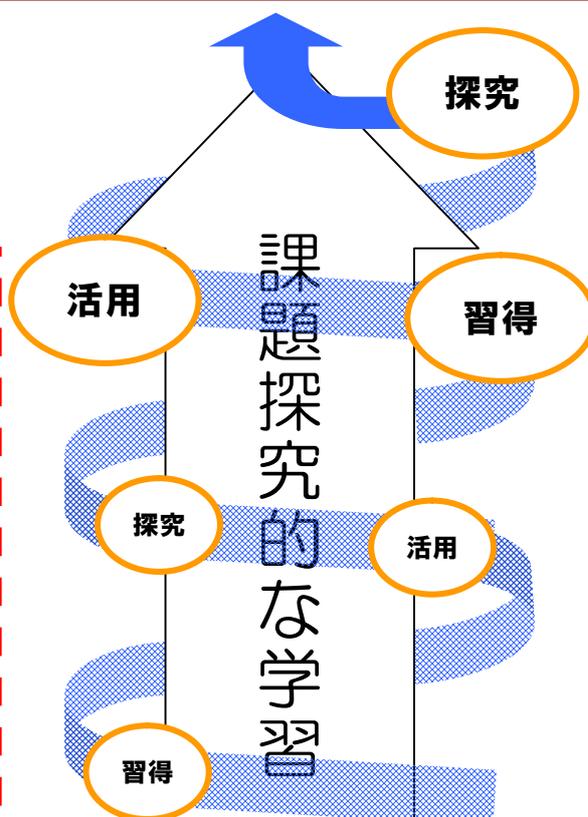
基礎的・基本的な『知識・技能の習得』、実験・観察やレポートの作成、論述といった『知識・技能の活用』、それを教科横断的な課題解決学習などの『探究活動』へと発展させる学習活動を、6年間という長い期間を活用して、繰り返し行うことで、より深い探究活動につなげることが可能です。こういった学習活動を行うことにより、思考力・判断力・表現力や課題発見・解決力を育てるとともに、知的好奇心を刺激し、学ぶ意欲を高めたり、自ら学び自ら考える力を高めたりすることが期待されます。

課題探究的な学習における  
習得・活用・探究の学習スパイラル

- ◆ 課題発見・解決力の育成
- ◆ 思考力・判断力・表現力の育成

★ 習得・活用・探究の学習スパイラル

- ◆ 習得  
基礎的・基本的な知識・技能の習得  
例. 各教科における知識理解・技能習熟、情報収集スキル、調査手法（実験・観察等）習得
- ◆ 活用  
自ら思考する力、表現する力の育成  
例. 実験等のデータの整理・分析を行い、検証する力の育成、調査研究のまとめと発表
- ◆ 探究  
自ら問いを立てて解決する力の育成  
例. 課題発見⇒仮説⇒情報収集⇒情報の整理・分析⇒課題解決

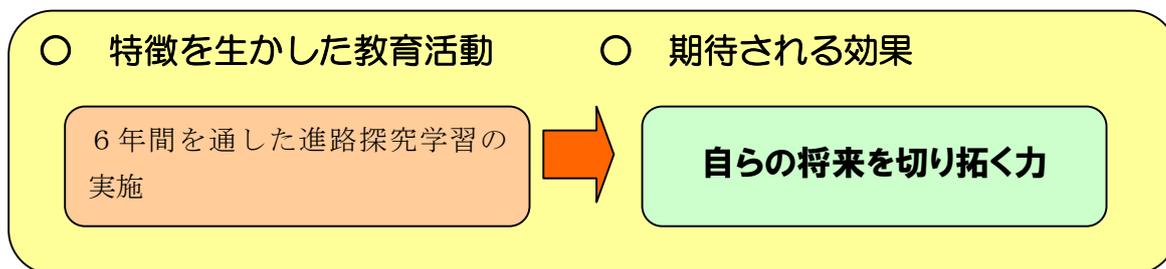


## イ 進路探究学習の更なる推進

地域の人材や団体などと連携したインターンシップ<sup>注3</sup>をはじめとする体験的活動を含め、6年間を見通した系統的、計画的な進路探究学習プログラムを構築することにより、より一層、学ぶことの意義や大切さを理解させ、学ぶ意欲の向上を図るとともに、自らの将来の社会的自立や生き方を主体的に考え、自らの将来を切り拓く力を育てます。

### <展開例>

- ・ 総合的な学習の時間等において、6年間を見通したインターンシップ等を実施します。
- ・ 学校行事や総合的な学習の時間等において、地域の様々な人々との触れ合いや地域ボランティアを実施します。

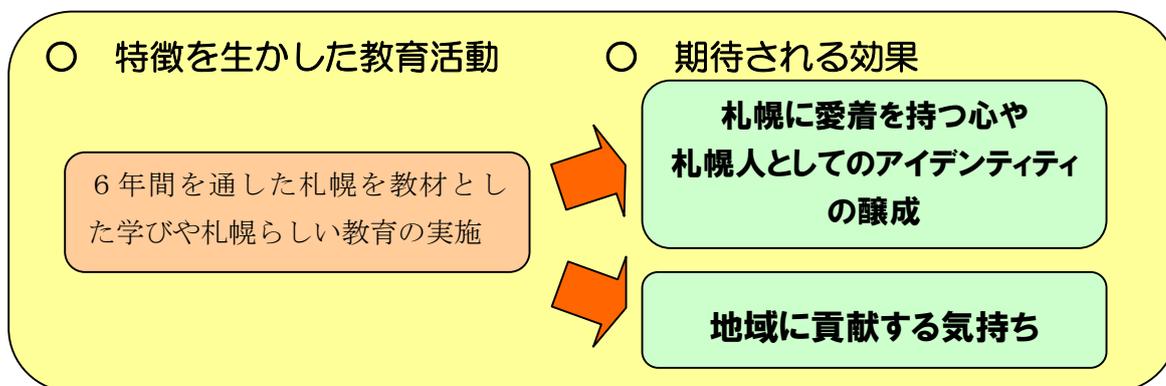


## ウ 札幌を教材とした学び

6年間のそれぞれの発達段階に応じた、「札幌らしい特色ある学校教育」の3テーマ（雪・環境・読書）を教材とする学習や地域の教育資源の活用、地域活動への参加を行うことなどにより、「ふるさと札幌」への愛着と札幌人としてのアイデンティティを醸成するとともに、地域に貢献する気持ちをはぐくみます。

### <展開例>

- ・ 「雪」「環境」をテーマとした課題探究的な学習を、除雪ボランティアやエコ活動などの体験活動から、森林調査などのフィールドワークまで、テーマに沿った読書活動も交えながら系統的に行い、その成果により、例えば札幌のまちづくりに関する提言として発信できるレベルにまで高めることが可能になります。



注3 インターンシップ

事業所の現場等で就業体験実習を行うことを言います。実社会の現場等で、地域の産業を知り、また体験することにより、自らの適性や職業との関わりを考える契機となり、職業観や勤労観をはぐくむ上で有効な取組とされています。

## (2) 「幅広い異年齢集団による学び合い」を生かした取組

異年齢集団における活動や学び合いを重視することにより、学習意欲の向上を図ることや豊かな人間性をはぐくむことができます。

### ア 特別活動等における異年齢集団による活動の重視

学校行事などの特別活動や部活動において、幅広い異年齢集団による活動を重視することにより、生徒の主体性やリーダーシップ等を育て、豊かな人間性をはぐくみます。

#### <展開例>

- ・ 中学校段階の生徒と高校段階の生徒が合同で行なう部活動や生徒会活動を組織することで、興味関心を同じくする生徒同士が、日常的に、学年を超えた幅広い異年齢集団の中で交流し、互いに刺激しあい、高め合うことができます。
- ・ 学校祭や体育大会などにおいて、1年生から6年生までの幅広い異年齢で一つのチームを組織するなど、学校行事等への取組を通して、幅広い人間関係を築き上げるような機会を提供します。

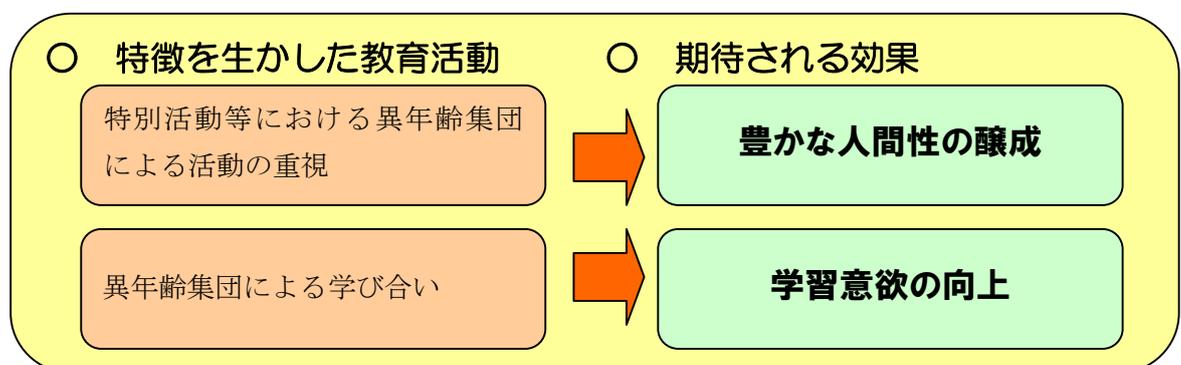
### イ 異年齢集団による学び合いによる学習意欲の向上

高校段階の生徒が中学校段階の生徒にアドバイスや支援をするなどの「教え」「教えられる」場を設定することにより、理解を深めることや責任感をはぐくむとともに、身近な目標として上級生の活動に触れることにより、生徒の学習意欲の向上を図ります。

#### <展開例>

- ・ 中学校段階の実験の授業に高校段階の上級生がサポートとして加わることや、高校段階の課題探究的な学習の発表を下級生が聞いて学ぶことで、下級生は上級生を憧れの存在と感じ身近な目標とするなどの効果が、また、上級生は教える体験により学習への理解を深めるなどの効果が期待され、生徒全体の学習意欲を高めることが可能です。

※ 特に、課題探究的な学習では、「教える」「教えられる」という学び合いの関係から生徒の学習意欲をより一層高めることが期待されます。



### (3) 「6年間にわたる見守り」を生かした取組

生徒が試行錯誤を繰り返しながら学び、成長していく過程を、中学校出身の教員と高校出身の教員が一体となって6年間継続して見守ることにより、生徒一人ひとりの長所や個性を発見し、より伸ばすことができます。

#### <展開例>

- 6年間継続して生徒の成長過程を見守る観点から、中学校出身の教員と高校出身の教員を区別することなく、一体的な学校運営を行うことや双方の教員が共同で、6年間を見通した生徒指導計画を立案するとともに、日常的に学び合いながら、生徒の成長を支援する体制を築くことで、6年間継続して生徒を見守り、生徒一人ひとりの長所や個性を発見し、より伸ばすことができます。

#### ○ 特徴を生かした教育活動

6年間にわたる見守り

#### ○ 期待される効果

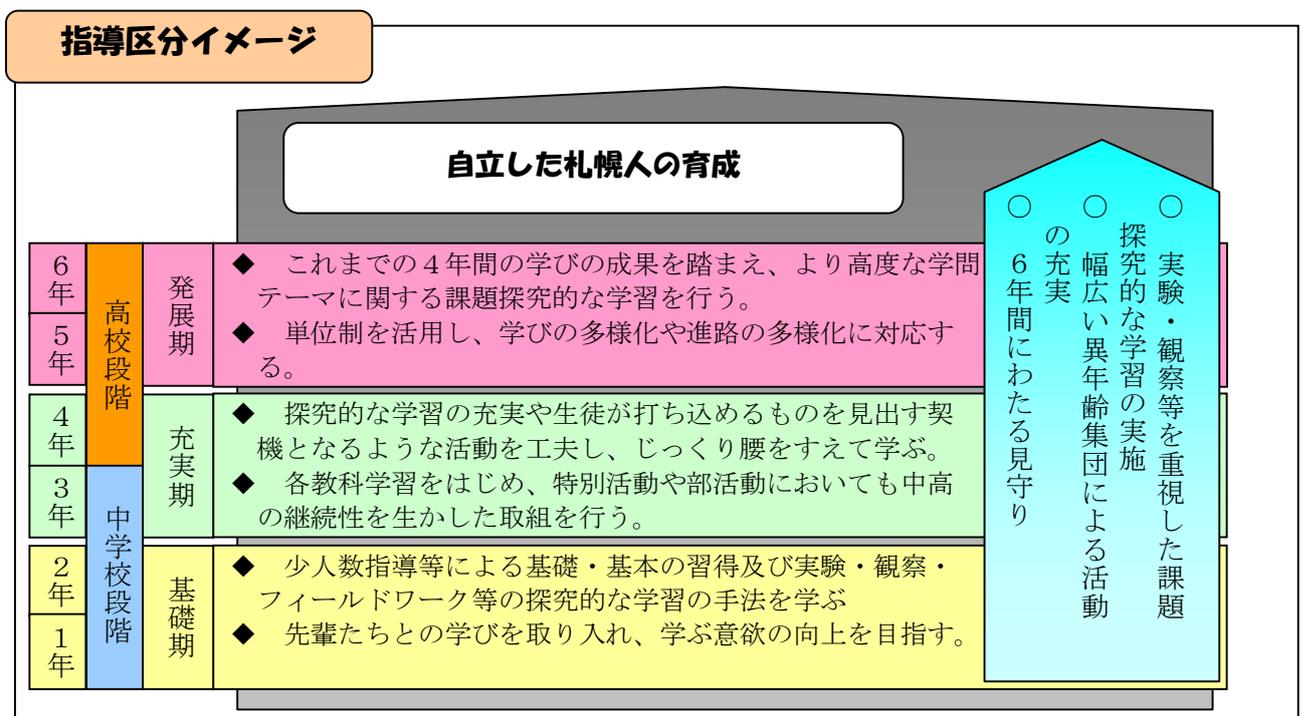
長所や個性の  
より一層の伸長



## 2 発達段階に応じた指導区分の設定及び単位制の導入

中高一貫教育は、中学校3年と高校1年を接続し、6年間一貫した理念で教育することに意義があることから、高校入試がない利点を生かし、生徒の発達段階に応じた指導区分を設定します。指導区分の設定に当たっては、中学校3年と高校1年の学習内容の円滑な接続を図り、依存から自立に向かう6年間の発達段階に応じたきめ細かな対応を行う観点から、それぞれ2年間ずつ、「基礎期」「充実期」「発展期」の3段階に区分し、例えば、基礎期においては、少人数指導等による基礎・基本の習得を図るなど、各指導区分に対応した教育プログラムを設定します。

また、生徒の多様な興味・関心、進路希望等に対応するために、後期課程（高校段階）から単位制<sup>注4</sup>を導入し、特に発展期において、大幅な科目選択を可能とします。



**注4 単位制**

必ず学ばなければならない科目のほか、学校が開設した多数の科目の中から興味・関心や進路希望等に応じて自分で科目を選択し学ぶことができる制度です。また、学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位数を修得すれば卒業が認められます。札幌市立高校では、旭丘高校及び大通高校が単位制を導入しています。

### 3 他の中学校・高校との教育成果の共有

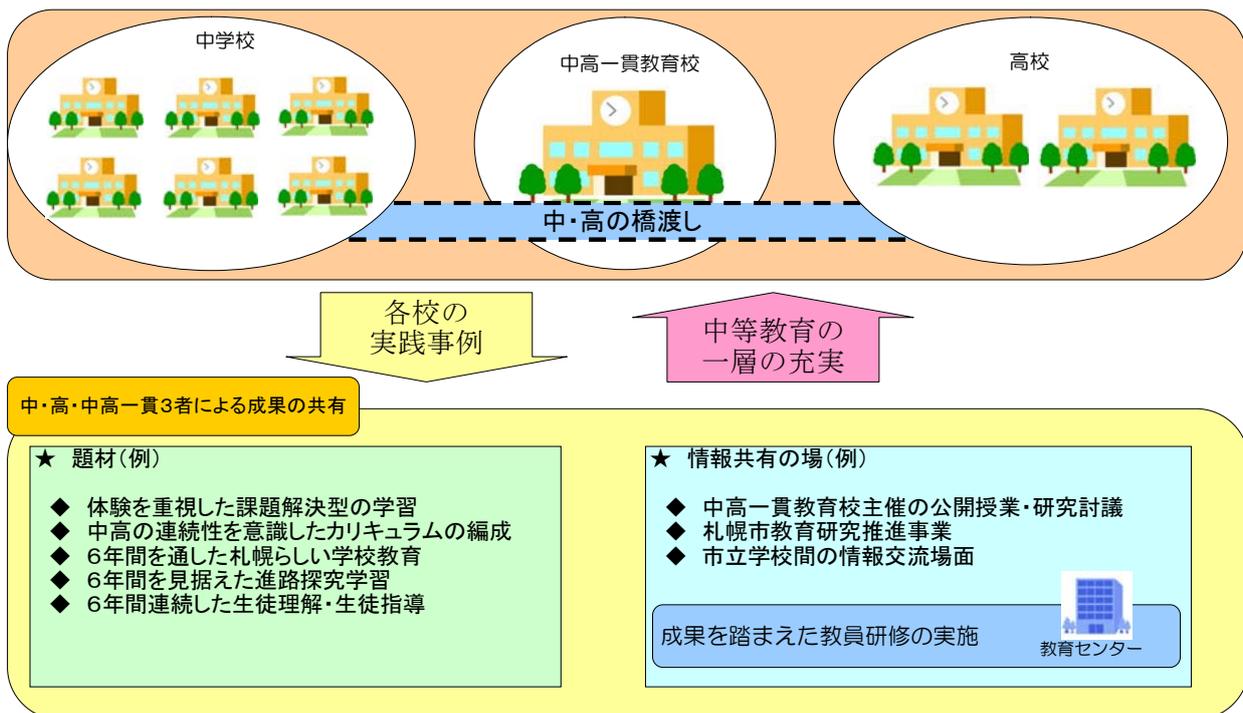
中高一貫教育校においては、中学校教員と高校教員が共に協力しながら教材研究や学習指導を行うことにより、中学校段階と高校段階の連続性を意識した実践研究を行うことができます。

例えば、中高一貫教育校における授業公開や札幌市教育研究推進事業<sup>注5</sup>、あるいは市立学校間の情報交流の機会等を通して、中高一貫教育校の取組を題材に市立中学校・高校も含めて、実践事例を持ち寄り、成果を共有することで、札幌市全体で推進している体験を重視した課題解決型の学習や発達段階に応じた進路探究学習などを更に充実したものにできると考えます。

加えて、その成果を札幌市教育センター<sup>注6</sup>が実施する教員研修などでも活用していくことを想定しています。

以上のように中高一貫教育校が、中学校・高校の橋渡しを行い、中高一貫教育校を含めた3者が、様々な成果を共有し、互いに高め合う取組を推進することにより、札幌市の中等教育の一層の充実を図っていきます。

#### 教育成果の共有のイメージ



<sup>注5</sup> 札幌市教育研究推進事業

各学校の校内研究を基盤として、市内の小・中・特別支援学校の教職員が協働しながら主体的に取り組む実践的研究を全市的に積み上げるものであり、「小学校国語」など、24の研究項目のいずれか一つを教職員が選択して、当該研究項目における研究活動を推進し、年2回の授業公開等の研究集会を開催するほか、各学校の校内研究をまとめた集録や、研究成果をまとめた研究紀要等を刊行するなどして、研究成果を共有しています。

<sup>注6</sup> 札幌市教育センター

札幌市教育委員会が所管する施設であり、その主な業務として、札幌市の学校教育に携わる教職員の資質の向上と専門的な力量を高める研修を行うほか、不登校等や特別支援教育・幼児教育に係る教育相談、価値ある教育資料の収集・提供、北方自然教育園や日本語教室等体験的・支援的な学習の場の提供を行っています。

---

#### 4 魅力ある学校づくりに向けた取組

これまで述べてきた教育活動を効果的に推進するための教育環境整備を目的に、札幌市が設置する中高一貫教育校においては、特に以下の点について取組を進めます。

##### (1) 中・高教員一体となった学校運営

中学校でも高校でもない6年間一貫した教育を提供する新たな学校を創造するために、中学校出身教員と高校出身教員の区別なく、相互に授業を持つことを含め、一体的な学校運営を行います。

##### (2) 地域の教育力の活用

ゲストティーチャーを招いての授業や、札幌にある歴史的遺産や文化的施設などを活用した学習活動、札幌市内の企業での職場体験、ボランティア活動等の地域と協働する活動の実施など、札幌市内の教育資源を積極的に活用した教育活動の推進を目指します。

##### (3) 大学等との連携

生徒の学習意欲の向上を目的に、積極的に大学等の専門機関と連携し、生徒の興味関心に応じて、最先端の学問研究などの「ほんもの」に触れる機会を提供するなどして、知的好奇心を刺激する工夫を図ります。

##### (4) 異文化交流の機会の充実

中学校段階から、ネイティブスピーカーを積極的に活用した外国語教育の充実を図るとともに、市内語学研修や海外見学旅行、海外姉妹校提携、交換留学、ホームステイなど様々な取組を検討し、異文化交流の機会の充実を図ります。



## IV 中高一貫教育校設置の枠組

### 1 設置形態：中等教育学校(一体型)

札幌市で設置する中高一貫教育校における設置形態は、以下の理由から中等教育学校(一体型)とします。

#### 【設置形態選定の理由】

- ① 学習面において、中等教育学校(一体型)は、併設型と異なり、生徒全員に対して共通した教育課程で系統的、継続的に指導することが可能であり、6年間の積み上げ効果を最大限発揮できるとともに、6年間を見通した、より効果的で特色のある教育課程を柔軟に編成できます。
- ② 生活面において、中等教育学校(一体型)は、高校段階から入学する生徒がいる併設型と比較し、6年間にわたってじっくりと生徒の成長を見守り育てるという中高一貫教育の利点をすべての生徒が享受できます。
- ③ 学校運営面において、中等教育学校(一体型)は、前期課程(中学校段階)と後期課程(高校段階)が1つの学校となるため、中学校教員と高校教員が一体となって学校運営を行いやすいという特徴があります。

### 2 学校規模：1学年4学級(総学級数24学級)

中高一貫教育のメリットを最大限生かすためには、中学校部分と高校部分の一体的な学校運営ができ、生徒全体を把握することができる学校規模とすることが重要と考えます。

現在、札幌市における学校の適正規模については、中学校では1学年4～6学級(計12学級～18学級)<sup>注7</sup>、高校では1学年4～8学級(計12学級～24学級)<sup>注8</sup>としています。

また、全国で既に設置されている国公立の中等教育学校(一体型)32校においては、1学年4学級(計24学級)を超えるところはありません(資料6参照)。

これらのことから、札幌市で設置する中等教育学校(一体型)の学校規模は、1学年4学級(総学級数24学級)とします。

### 3 通学区域：札幌市内

通学区域については、中高一貫教育を望む市内の児童に対して公平に入学の機会を提供するため、札幌市内とします。

注7 中学校の適正規模

「札幌市立小中学校の学校規模の適正化に関する基本方針」(平成19年12月札幌市教育委員会策定)において、生徒への教育効果や部活動の運営などを考慮し、1学年4～6学級を適正規模と定めています。

注8 高校の適正規模

「公立高等学校配置の基本指針と見通し」(平成12年6月北海道教育委員会策定)において、選択幅の広い教育課程の編成をはじめ、特別活動や部活動などを効果的に展開する観点から、1学年4～8学級を適正規模と定めています。

#### 4 開校時期：平成 27 年度

中高一貫教育校の設置に当たって、改編対象校の高校部分については、現行 1 学年 8 学級から 4 学級に学級数が減少することから、学級減の影響を緩和するため、開校時期は中学校卒業生数が大きく減少する時期が適当と考え、開校時期を平成 27 年度とし、児童・生徒、保護者への周知期間を十分に確保します。

＜参考＞札幌市内の中卒者数推移（北海道教育委員会調べ）

年度	21 年	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年	28 年	29 年
中卒見込数	16,348	17,060	16,204	16,363	16,147	16,145	15,677	15,531	15,753
前年比増減	▲460	+712	▲856	+159	▲216	▲2	▲468	▲146	+222

※ 平成 25 年度までは、北海道教育委員会により「公立高等学校配置計画<sup>注9</sup>（平成 23 年度～25 年度）」が策定されており、高校の学級数の増減に関する見込みが示されています。

※ 住民基本台帳を基にした札幌市の人口統計によると、平成 30 年度以降も少子化の進行が見込まれています。

#### 5 入学者の決定方法<sup>注10</sup>

前期課程（中学校段階）の入学者の決定に当たっては、学力検査を行わず、適性検査、作文、面接、調査書、抽選など複数の方法の中から選択のうえ、適切に組み合わせて実施することとし、受験競争の低年齢化を招かないよう十分留意します。

なお、入学者の決定方法については、今後詳細に検討し、開校前年度までに公表します。

また、入試日程については、私学関係団体と話し合うなど、関係機関と調整のうえ、決定することを考えています。

#### 6 中高一貫教育校設置に伴う移行期間

##### (1) 移行期間における取り扱い

中高一貫教育校の設置に伴う移行期間においては、一体的な学校運営体制を確立することや幅広い異年齢集団による学び合い等の中高一貫教育の効果を可能な限り早期に発揮すること、更には、高校入学率減少の緩和を目的に、平成 27 年度～29 年度の 3 年間については、高校段階からの入学枠を設け、中等教育学校後期課程の生徒として募集することとします。

なお、この移行期間における学級数については校舎規模を勘案し、以下の通りとします。

<sup>注9</sup> 公立高校配置計画

高校進学希望者数に見合った定員の確保、教育水準の維持・向上などを図る観点から北海道教育委員会が、適正な高校配置（学級数含む）について、地域の実情等を踏まえ調整し、今後 3 年間の具体的な配置計画を毎年提示しています。

<sup>注10</sup> 入学者の決定方法

学校教育法施行規則により、公立の中等教育学校及び併設型中学校の入学者決定にあたっては、学力検査を実施しないこととなっています。他都市の先進事例においては、適性検査、作文、面接、調査書などを組み合わせて入学者を決定しているところが多く、加えて抽選や実技（グループ活動を含む）を採用しているところもあります。

★ 中高一貫教育校移行期間

				27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
中学校	1年	中等教育学校	1年	4	4	4	4	4	4
	2年			4	4	4	4	4	
	3年				4	4	4	4	
高校	1年	4年	4	4	4	4	4	4	
	2年	5年	8	4	4	4	4	4	
	3年	6年	8	8	4	4	4	4	
学校規模				24	24	24	24	24	24

中等教育学校の前期課程(中学校段階)から入学した生徒  
 中等教育学校開校後に後期課程(高校段階)から入学した生徒  
 中等教育学校開校前に高校に入学していた生徒  
 ※ 表の数字は学級数を表す(1学級あたり40人の場合)。

(2) 移行期間における後期課程(高校段階)入学生の通学区域

移行期間における後期課程(高校段階)の入学生についても、前期課程への入学と同様、通学区域は札幌市内とします。

## V 中高一貫教育校の施設整備の考え方

### 1 施設整備の基本的な考え方

#### (1) 整備手法

開成高校の校舎は、築年数が平成 22 年 4 月 1 日時点で 47 年と老朽化が進んでいることから全面改築で整備します。

#### (2) 施設整備の基本的な考え方

ア 札幌市における中高一貫教育校については、実験・観察等を重視することを想定していることから、これらに対応する特別教室を整備します。

イ 中学校段階の少人数指導や高校段階の単位制などに対応できる数の講義室を整備します。

ウ 生徒会活動等の特別活動においては、中高一貫教育校のメリットを活かすことを目的とした中高合同の活動や、中学校段階のリーダーシップの育成を目的とした中高別々の活動の双方を想定していることから、これに対応できる施設レイアウトを工夫します。

エ 生徒がゆとりある学校生活を送れる環境づくりを進めるとともに、幅広い異年齢集団が触れ合う、生徒の憩いの場となるコモンスペース<sup>注11</sup>を確保します。

オ 中高の教員が一体となって教育活動に当たる必要があることから、職員室は一体のものとして整備します。また、整備に当たっては生徒が入室しやすく、相談しやすい配置を工夫します。

カ 中学校段階の生徒を対象とする給食の提供のための施設・設備を整備します。

### 2 開校までの施設整備のスケジュール（予定）

年 度	内 容
平成 23 年度	施設整備に係る基本計画の策定
平成 24 年度	基本設計・実施設計
平成 25 年度	新校舎建築工事着工
平成 26 年度	新校舎竣工（平成 27 年 4 月 開校予定）
平成 26～27 年度	既存校舎の解体、グラウンド造成

※ 上記スケジュールについては、基本設計等を行う中で変更の可能性があります。

#### 注11 コモンスペース

生徒たちの共有スペースのことで、単位制の場合、専用のホームルーム教室を持たないことから、生徒の居場所づくりの観点から生徒たちが談話できるスペースを確保する必要があります。

## VI 課題・留意点への対応等

### 1 課題・留意点への対応

中高一貫教育校は、国が平成9年の中央教育審議会<sup>注12</sup>からの提言を基に制度化したのですが、この提言の中では、中高一貫教育の特徴・利点とともに、懸念される事項についても指摘されています。また、これらの指摘のほかにも「札幌市中高一貫教育検討協議会」における指摘や札幌市教育委員会として先進事例調査を行うなかで、確認された留意点があります。札幌市が設置する中高一貫教育校においては、これらの課題・留意点について、以下のような対応策を考えています。

#### (1) 受験競争の低年齢化への懸念

##### ア 課題・留意点

制度の適切な運用が図られなければ、受験競争の低年齢化につながる恐れがあると指摘されています。

##### イ 対応策

入学者の決定方法については、学力検査を行わず、適性検査、作文、面接、調査書、抽選などを適切に組み合わせて実施し、受験競争の低年齢化を招かないよう十分留意します。

#### (2) 受験準備に偏した教育への懸念

##### ア 課題・留意点

教育課程の基準の特例（高校の学習内容の一部を中学校で学習する等）の効果をいわゆる受験勉強に集中的に活用することにより、受験準備に偏した教育になる可能性があるとして指摘されています。

##### イ 対応策

札幌市が設置する中高一貫教育校においては、実験・観察・体験等を重視した課題探究的な学習などを教育の柱と考えており、受験準備に偏したカリキュラムは想定していません。

#### (3) 生徒集団の固定化への対応と進路変更の保障

##### ア 課題・留意点

生徒集団が長期間同一メンバーで固定されることにより、学習環境に馴染めない生徒が発生する可能性があるとして指摘されています。

##### イ 対応策

生徒に対して、きめ細かな相談体制の充実を図ります。また、前期課程修了段階で他の高校に進学することも保障できるよう、中学校段階の学習内容を高校段階に先送りしないよう配慮します。

<sup>注12</sup> 中央教育審議会

文部科学大臣の諮問に応じて教育の振興、生涯学習の推進を中心とした人材育成、スポーツの振興に関する重要事項などを審議することを目的として設置された機関で、その下には、教育制度に関する事項を扱う教育制度分科会や、幼稚園から高校までの教育に関する事項を扱う初等中等教育分科会など、5つの分科会が置かれています。

#### (4) 心身発達の差異の大きい生徒への対応（中高教員の連携）

##### ア 課題・留意点

心身発達の差異の大きい生徒を対象に円滑な学校運営を行うためには、教員が緊密に連携し、きめ細かな配慮をしていくことが必要と指摘されています。

##### イ 対応策

中学校教員と高校教員によるティームティーチング<sup>注13</sup>の実施等お互いの理解を深める取組を推進するとともに、日々の情報交換がスムーズに行われる施設整備を行います。

#### (5) 小学校卒業段階の進路選択の困難性（多様な進路希望）

##### ア 課題・留意点

小学校卒業時点で自らの進路を選択することの困難性が指摘されています。また、同じ学校で多感な6年間を過ごすこととなることから、多様な進路希望が生じるものと想定されます。

##### イ 対応策

児童・保護者に対し、中高一貫教育校の特性について十分周知を図ります。また、進路探究学習を充実させることにより、自らの将来を切り拓く力を育てるとともに、発展期（5・6年生）の段階で大幅な科目選択を可能とし、生徒の多様な進路希望に対応します。

#### (6) “中だるみ”への対応

##### ア 課題・留意点

高校入試がなく、6年間という長い期間を同じ環境で生活することから、生徒の“中だるみ”が発生することが想定されると指摘されています。

##### イ 対応策

“中だるみ”が懸念される3・4年生については、高校入試がないことによる時間的余裕を活用し、課題探究的な学習や進路探究学習など興味を持って取り組む学習の場を提供し、高い意欲を持続させる取組を実施します。

#### (7) 中学校段階におけるリーダーシップの育成

##### ア 課題・留意点

6学年一緒の生徒会活動や部活動では、5・6年生がリーダーになってしまうことから、中学校段階におけるリーダーシップの育成が困難になるとの懸念が指摘されています。

##### イ 対応策

札幌市における中高一貫教育校においては、生徒会活動や部活動については、6学年一緒の活動を基本としますが、発達段階に応じたリーダーシップの育成を図ることを考慮し、中・高別々の活動についても工夫します。

<sup>注13</sup> ティームティーチング

複数の教員が連携・協力して、指導計画の作成、授業の実施、教育評価などに当る手法を指します。例えば、授業等の学習指導において、主に授業を進める教員と児童・生徒に個別に対応する教員が役割分担をして、児童・生徒の個別の課題に応じてきめ細かく指導する方法や、学習内容によっては異なる教科の教員がチームをつくり、協力して指導を行う方法があります。

---

## 2 今後の進め方

今後、市民意見等を踏まえ、カリキュラムや入学者決定方法の詳細、具体的な部活動の展開、移行期間における対応、保護者負担などの部分について検討を進め、適切な時期に説明会を開くなど情報提供を行っていきます。

また、開校前には、入学を希望する児童・保護者向けの学校説明会の開催を考えています。

## 3 評価と検証

中高一貫教育校の設置後、教育効果を十分に評価・検証するとともに、これまで、札幌市で取り組んできた市立高校改革全体についての検証と併せ、札幌市の中等教育の更なる発展を目指すために、今後どのような取組を進めていくべきかについて検討を行います。



# 資 料 編

- 1 中等教育学校、併設型中学校・高等学校における  
教育課程の基準の特例について…………… P28
- 2 札幌市中高一貫教育検討協議会への諮問書…………… P29
- 3 札幌市中高一貫教育検討協議会 委員名簿…………… P30
- 4 札幌市中高一貫教育検討協議会 協議経過…………… P31
- 5 各都道府県等における中高一貫教育校の設置・検討状況…………… P32
- 6 他都市の国公立中等教育学校一覧…………… P33
- 7 学校教育法等の一部を改正する法律案に対する附帯決議…………… P35
- 8 札幌市の市立高校の概要…………… P36



## 中等教育学校、併設型中学校・高等学校における教育課程の基準の特例について

(※新学習指導要領による。)

### 前期課程(併設中学校)

#### 選択教科による各教科の代替

各教科の授業時数を、年間 70 単位時間の範囲内で減じ、それを当該各教科の内容を代替することのできる内容の選択教科のための授業時数に充てることができる(減ずる授業時数は1教科当たり 35 単位時間を限度とする)。

上記以外の選択教科の開設については、標準授業時数の枠外において開設できる。

#### 【活用例】

- 課題学習の充実(発表や表現活動の時間の確保)
- 補充的学習(基礎・基本の確実な定着)
- 発展的な学習(学習内容の深化)
- 特色ある教科(国際、環境、札幌など)を設け、体験学習を充実
- ※ (例)教科「国語」から 15 単位時間及び「技術・家庭(技術分野)」から 20 単位時間を減じ、選択教科「情報リテラシー」35 単位時間を開設し、学校選択として生徒全員が履修する。

### 後期課程(高等学校)

普通科において「学校設定教科」「学校設定科目」の修得単位数を 30 単位まで(通常の高等学校は 20 単位まで)、卒業に必要な修得単位数に含めることができる。

#### 【活用例】

- 地域や学校の特色を反映した科目の設定(「札幌学」「環境科学」など)
- 生徒の習熟の程度に応じた科目等の設定(「基礎英会話」「実践上級英会話」など)
- 生徒の興味、関心、進路希望等に応じた科目の設定(「国際理解」「野外観察」など)

### 前期課程(併設中学校)と後期課程(高等学校)

#### 1 中学校と高等学校との指導内容の入れ替え

前期課程(中学校)と後期課程(高等学校)の指導内容の一部を相互に入れ替えが可能。

#### 【活用例】

- 中学「社会」(公民分野・政治領域)を高校公民・「現代社会」(政治分野)に組込む。
- 高校公民・「現代社会」(経済分野)を中学「社会」(公民分野・経済領域)に組込む。

#### 2 高等学校から中学校への指導内容の移行

後期課程(高等学校)の指導内容の一部を前期課程(中学校)へ移行が可能。この場合、後期課程(高等学校)で再履修しないことが可能。

#### 【活用例】

- 高校国語「古典」の一部を中学第3学年「国語」に移行。

#### 3 中学校から高等学校への指導内容の移行

前期課程(中学校)の指導内容の一部を後期課程(高等学校)へ移行することが可能。

#### 【活用例】

- 中学第3学年「理科」(第2分野(生物))を高校理科「生物基礎」に移行。

平成 20 年（2008 年）5 月 19 日

札幌市中高一貫教育検討協議会会長 様

札幌市教育委員会教育長 奥岡 文夫

## 諮 問 書

下記の事項について、諮問いたします。

### 記

#### 1 諮問事項

札幌市における中高一貫教育の必要性とその望ましいあり方について

#### 2 諮問理由

札幌市教育委員会では、札幌市教育推進の目標である「21 世紀を切り拓く人間性豊かで創造性あふれる市民」の育成を目指して、児童・生徒の発達段階に即した計画を策定し、その実施に努めています。

これらの計画のうち、「札幌市教育推進計画」「札幌市高等学校教育改革推進計画」において、中高一貫教育校の設置については検討項目と位置づけ、これまでの間、札幌市教育委員会で検討を行ってきましたが、中高一貫教育校の設置にあたっては、様々な課題や留意点などがあり、また、保護者・生徒の意識調査では、公立の中高一貫教育校に対する比較的高い関心が示されるとともに、一定程度の入学希望がある一方で、具体的な教育内容がわからないなどの回答もありました。

このため、中高一貫教育校の設置の可否を含めた方針を決定するためには、課題や留意点などを十分考慮した上で、札幌市における望ましい中高一貫教育のあり方について、設置の必要性やその方向性を含め、より具体的に検討する必要があります。

## 札幌市中高一貫教育検討協議会 委員名簿

氏名	団体・職業等	区分	備考
大久保 和義	北海道教育大学理事	学識経験者	会長
岡部 善平	小樽商科大学商学部准教授	学識経験者	副会長 専門部会長
大内 輝美	札幌開成高等学校教諭	市立学校教職員	専門部会委員
大野 夏代	大学教員	公募	
木村 嘉宏	札幌市立八条中学校教諭	市立学校教職員	
紺野 高裕	札幌市立円山小学校教諭	市立学校教職員	
清水 顕史	札幌市立平岡中央中学校教諭	市立学校教職員	専門部会委員
千田 薫	札幌市立幌南小学校校長	市立学校教職員	
津元 万美江	札幌市PTA協議会副会長	P T A	平成20年 11月から
七尾 宗清	札幌開成高等学校PTA会長	P T A	
西村 真理	札幌市PTA協議会副会長	P T A	平成20年 11月まで
新田 哲史	札幌星園高等学校教諭	市立学校教職員	
本間 良夫	札幌市立柏中学校校長	市立学校教職員	
水谷 千佳	主婦、消費生活アドバイザー	公募	専門部会委員
宮浦 俊明	札幌旭丘高等学校校長	市立学校教職員	専門部会委員
山谷 陽子	札幌市立富丘小学校教頭	市立学校教職員	

(敬称略、会長・副会長を除き50音順)

## 札幌市中高一貫教育検討協議会 協議経過

回	開催日等	議題等	会場等
1	平成20年5月19日	会長、副会長の選出、諮問書の手交、今後のスケジュール、検討経過の確認、協議の方向性等について	教育委員会 会議室
2	平成20年7月18日	先進校の事例研究、札幌市において想定される中高一貫教育校の教育内容等	教育委員会 会議室
	平成20年8月18日 ～ 平成20年8月20日	他都市中高一貫教育校の視察、調査研究（関西）	
	平成20年8月26日 ～ 平成20年8月28日	他都市中高一貫教育校の視察、調査研究（関東）	
3	平成20年9月12日	他都市中高一貫教育校の調査研究報告	教育委員会 会議室
4	平成20年10月10日	札幌市において想定される中高一貫教育校の教育内容等	教育委員会 会議室
5	平成20年11月28日	札幌市において想定される中高一貫教育校の教育内容等	教育委員会 会議室
	平成20年12月17日	北海道登別明日中等教育学校視察、調査研究	
6	平成21年1月30日	教育内容等これまでの検討事項のまとめ、課題・留意点等の整理 学校規模等その他の条件 答申書（案）の作成にあたっての基本的考え方等	教育委員会 会議室
7	平成21年3月27日	答申書概要（案）の協議	教育委員会 会議室
8	平成21年5月11日	答申書最終（案）の協議・確認等	教育委員会 会議室
	平成21年5月18日	協議会から教育委員会への答申	教育委員会 会議室

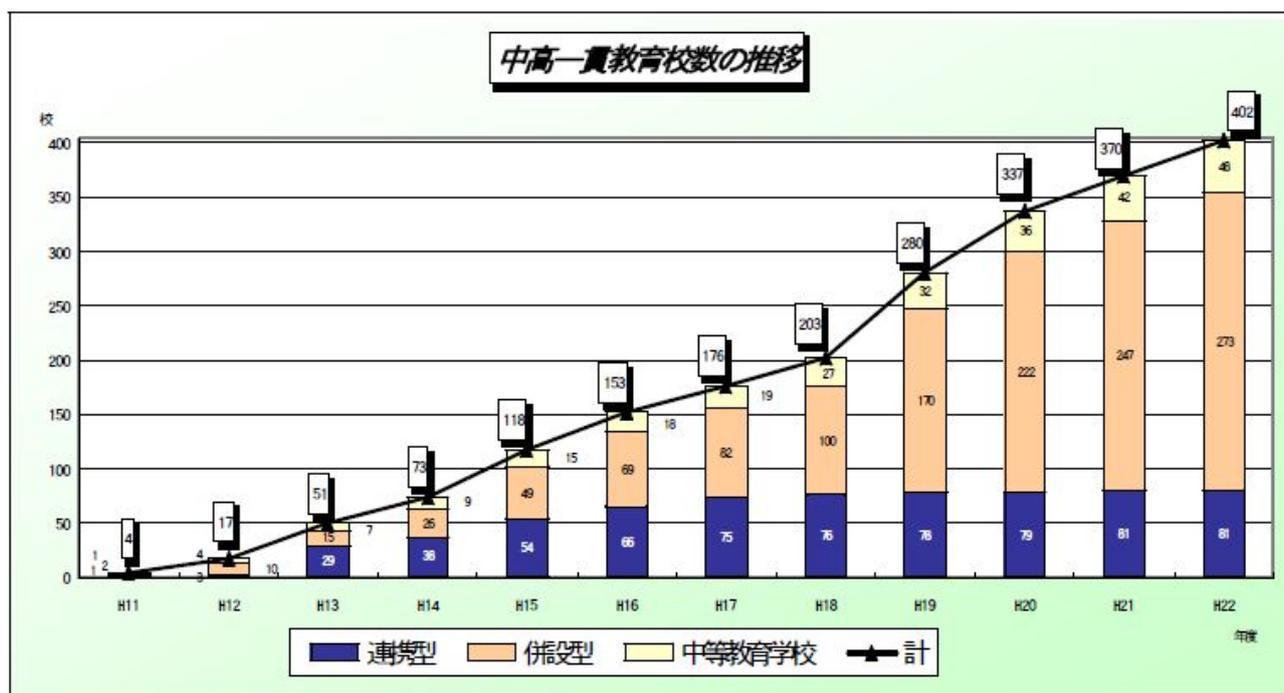
※ 札幌市中高一貫教育検討協議会からの答申書については、教育委員会HPで公開しています。

## 各都道府県等における中高一貫教育校の設置・検討状況

## 1 設置状況（平成 22 年 4 月時点【文部科学省調べ】）

**設置校数 平成 21 年度 370 校 ⇒ 平成 22 年度 402 校**

平成 21 年度の 370 校と比較して 32 校増加し、平成 22 年 4 月現在 402 校となっています。公立の中高一貫教育校が設置されている県は 44 都道府県であり、そのうち 41 都道府県においては複数校が設置されています。



※平成 22 年度の設置状況の内訳

区分	中等教育学校	併設型	連携型	計
公立	28 (25)	68 (63)	80 (80)	176 (168)
私立	16 (13)	204 (183)	1 (1)	221 (197)
国立	4 (4)	1 (1)	0 (0)	5 (5)
計	48 (42)	273 (247)	81 (81)	402 (370)

注 1 ( ) 内は平成 21 年度の設置校数です。

注 2 併設型及び連携型は、中学校・高等学校 1 組を 1 校として集計しています。

## 2 北海道・政令指定都市における設置状況（中等教育学校・併設型）

北海道に設置されているのは、平成 19 年に開校した、北海道登別明日中等教育学校のみで、併設型中学校・高校は、設置されていません。

なお、政令指定都市では、札幌、川崎、横浜、堺、福岡を除く 14 政令市に国公立の中高一貫教育校（一体型若しくは併設型）が設置されています。（横浜市は平成 24 年度、川崎市は平成 26 年度にそれぞれ併設型を設置する予定）。

## 他都市の国公立中等教育学校一覧

※ 学級数を除く部分については、『高等学校教育の改革に関する推進状況について』（文部科学省）から抜粋

設置者	学校名	開設年度	学級数		特色
			1学年	合計	
宮崎県	五ヶ瀬	11年度	1学級	6学級	・体験学習を中心としたフォレストピア学習の実施 ・ファミリー制度（7～8名の異学年集団グループによる教育課程外活動の充実）
国立	東大附属	12年度	3学級	18学級	多様な生徒に対して学力の基礎となる「言葉の力、論理の力、身体・表現の力、関係の力」の「5つの力」を身につけさせる教育を実施・生徒の発達段階に即した課題別学習や卒業研究の「総合学習」と教科学習の乗り入れによる教育の実践・生徒が学び合うために教師が学び合う「学びの共同体」づくりを学校全体で推進
国立	奈良女大附属	12年度	3学級	18学級	・完全6年一貫教育の特徴を生かしたカリキュラムのもとで、課題解決型、体験型の学習を多く取り入れた教育を実施 ・SSH研究開発を推進し、大学と連携した先進的な教育およびテクノロジーを活用した教育を実施 ・学園祭をはじめとする特別活動や国際交流活動を通じて、自由で自主的に行動する自立した人間を育成
新潟県	村上	14年度	2学級	12学級	主体的に学び、確かな学力と豊かな人間性を身に付け、国際的な視野を持って社会に貢献できる人間の育成
新潟県	柏崎翔洋	15年度	2学級	12学級	主体的に学び真理を尊ぶとともに、豊かな人間性や想像力を身に付け、国際的な視野に立ち社会の発展に貢献し得る積極有為な人間の育成
兵庫県	芦屋国際	15年度	2学級	12学級	言語環境や文化的背景の異なった子どもたちの相互啓発により、多文化社会における共生の心とコミュニケーション能力、異なる文化を理解・尊重する態度、豊かな国際感覚を備え、国際社会に貢献できる子どもたちの育成を目指す
群馬県	県立中央	16年度	4学級	24学級	英語教育とコミュニケーション能力の育成に重点を置いた中等教育学校
山口県	下関	16年度	3学級	18学級	地域の特性を生かし、国際化の進展に対応した学校づくり
福岡県	輝翔館	16年度	3学級	18学級	・21世紀でエースとなる人間の育成を目指す ・6年間を見通した進路学習やスピーチコンテストなどで自己の表現力を磨く活動を通して、個性の伸長を目指す
新潟県	燕	17年度	2学級	12学級	地域に立脚しつつ地球的視野で活躍できる人材の育成、学力の伸長と自己表現力の育成、豊かな人間性と健やかな身体の育成
東京都	桜修館	18年度	4学級	24学級	・6年間の一貫した教育課程により、教科指導とともに教養教育を充実し、社会のさまざまな場面でリーダーとなる人材を育成 ・論理的な思考力の育成
東京都	小石川	18年度	4学級	24学級	・6年間の一貫した教育課程により、教科指導とともに教養教育を充実し、社会のさまざまな場面でリーダーとなる人材を育成 ・理科好き・数学好きを育てる自然科学教育
千代田区	九段	18年度	4学級	24学級	「確かな学力の向上」、「豊かな人間性の育成」、「キャリア教育の推進」を3つの柱として、区立学校のメリットを生かしつつ、6年間の中高一貫教育の効果を最大限にあげられるような教育活動を展開
新潟県	津南	18年度	2学級	12学級	主体的に学び、確かな学力・豊かな表現力を身に付けるとともに、地域社会・自然との関わりの中で思いやりの心を育み、次世代を担う人間性豊かなたくましい人材を育成する
愛媛県	今治東	18年度	4学級	24学級	・6年間を、2年ごとの三つの学習ステージ（基礎期、充実期、発展期）に区分 ・確かな学力の育成、豊かな人間性の育成コミュニケーション能力の育成を目指す ・学校独自教科「コミュニケーション」の開設
愛媛県	松山西	18年度	4学級	24学級	・6年間を、2年ごとの三つの学習ステージ（基礎期、充実期、発展期）に区分 ・確かな学力の定着、豊かな心の育成、未来を拓く力の育成を目指す ・学校独自教科「表現」の開設

設置者	学校名	開設年度	学級数		特色
			1学年	合計	
愛媛県	宇和島南	18年度	4学級	24学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年間を、2年ごとの三つの学習ステージ（基礎・基本期、充実・交流期、発展・伸長期）に区分</li> <li>・基礎・基本の徹底、個性や才能の伸長、豊かな人間性の育成を目指す</li> <li>・学校独自教科「コミュニケーションプラクティス」の開設</li> </ul>
北海道	登別明日	19年度	2学級	12学級	海外見学旅行等の国際理解教育の充実と異年齢生徒による交流の促進
新潟県	直江津	19年度	3学級	18学級	大志を抱き、世界への貢献を目指して活力ある行動で、国際社会でリーダーとして活躍できる人材の育成
国立	東京学大附属国際	19年度	4学級	24学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際バカロレア中等課程（MYP）の候補校</li> <li>・「国際教養」という学習領域の設定</li> <li>・英語教育の重視と英語イマージョン授業の実施</li> <li>・理数探究の授業の充実</li> <li>・海外教育体験生徒に対する日本語指導や教科学習の支援</li> </ul>
茨城県	並木	20年度	4学級	24学級	「人間教育」「科学教育」「国際理解教育」を教育の柱とする
東京都	立川国際	20年度	4学級	24学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年間の一貫した教育課程により、教科指導とともに教養教育を充実し、社会のさまざまな場面でリーダーとなる人材を育成</li> <li>・帰国生徒・在京外国人生徒の受け入れ</li> </ul>
新潟県	佐渡	20年度	2学級	12学級	佐渡の歴史と文化に誇りを持ち、豊かな人間性と知性を身に付け、世界的視野で活躍できる人材の育成
伊勢崎市	四ツ葉学園	21年度	3学級	18学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じっくりと6年間かけて高い知性と豊かな道徳性を身につけた教養人を育成</li> <li>・知と徳の両輪を基盤に、独自のカリキュラムにより、生徒が本来持っている能力を最大限に引き出し、一人一人の夢と力を育み、自己実現を図る</li> </ul>
神奈川県	平塚	21年度	4学級	24学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い教養と社会性・独創性を備えた次世代を担う人材を育成</li> <li>・表現コミュニケーション力の育成を重視した教育の展開</li> </ul>
神奈川県	相模原	21年度	4学級	24学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い教養と社会性・独創性を備えた次世代を担う人材を育成</li> <li>・科学・論理的思考力の育成を重視した教育の展開</li> </ul>
仙台市	仙台青陵	21年度	4学級	24学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科男女140名、1クラス35名</li> <li>・6年間を2年ごとの三期に分けて、高い知性と豊かな教養を育てる</li> </ul>
新潟市	高志	21年度	4学級	24学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募集定員は120人であるが、1年生は1クラス30人編制できめ細やかな指導を展開している</li> <li>・6年間の連続性を生かしたカリキュラムと個に応じたいいねいな指導で学力を育てるとともに、様々な体験活動を行い、豊かな人間性を育み、将来に対する高い志をもたせる</li> </ul>
国立	神戸大学附属	21年度	3学級	18学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「国際的視野を持ち未来を切り拓くグローバルキャリア人」を育成</li> <li>・大学や社会において真に役立つ力を養成するため、「知の足腰」を大いに鍛える全人教育を実施</li> <li>・これまでの附属学校の伝統と、6年一貫教育の特長を生かした「ゆとり、継続、交わり」を踏まえた教育活動</li> </ul>
東京都	南多摩	22年度	4学級	24学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年間の一貫した教育課程により、教科指導とともに教養教育を充実し、社会の様々な場面でリーダーとなる人材を育成</li> <li>・瞑想や書写を通して品性や瑞々しい感性を涵養</li> </ul>
東京都	三鷹	22年度	4学級	24学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年間の一貫した教育課程により、教科指導とともに教養教育を充実し、社会の様々な場面でリーダーとなる人材を育成</li> <li>・「思いやり・人間愛」を主題とする「文化科学」、「文化一般」等の教科・科目の設置</li> </ul>
岡山県	岡山大安寺	22年度	4学級	24学級	6年間の一体的な学習活動や体験活動を通して「知識と体験の融合」を目指し、「たくましい人間力」を持つ生徒を育成

## 学校教育法等の一部を改正する法律案に対する附帯決議

### 学校教育法等の一部を改正する法律案に対する附帯決議(平成10年5月22日 衆議院文教委員会)

政府及び関係者は、中高一貫教育の選択的導入にあたり、次の事項について特段の配慮をすべきである。

- 1 中高一貫教育の導入は、新しい学校種を設けるなど今後の中等教育全体の改革の端緒を切るものであることを踏まえ、「中高一貫教育研究会議」等において児童・生徒や保護者のニーズ、地域の実情に十分に配慮して実施されること。
- 2 中高一貫教育の内容は、「ゆとり」のある学校生活の中で、児童・生徒の個性や創造性を大いに伸ばすという本旨にのっとり検討され、受験準備に偏したいわゆる「受験エリート校」化など、偏差値による学校間格差を助長することのないように十分に配慮すること。
- 3 中高一貫教育を行う学校では、入学者の選抜にあたって学力試験は行わないこととし、学校の個性や特色に応じて多様で柔軟な方法を適切に組み合わせて入学選抜方法を検討し、受験競争の低年齢化を招くことがないように十分に配慮すること。
- 4 各都道府県等においては、中高一貫教育の導入に際して、「研究会議」等を通じて、幅広い関係者による協議を行い、一貫教育の内容、入学者の決定方法、通学区の設定など地域の実情等を踏まえたものとなるように努めること。
- 5 国は、中高一貫教育の推進にかかる実践研究事業の一層の充実に努めること。

### 学校教育法等の一部を改正する法律案に対する附帯決議(平成10年6月4日 参議院文教・科学委員会)

政府及び関係者は、中高一貫教育の選択的導入に当たり、次の事項について特段の配慮をすべきである。

- 1 中高一貫教育の導入は、新しい学校種を設けるなど今後の中等教育全体の改革の端緒となるものであることを踏まえ、児童や保護者のニーズ、地域の実情に十分に配慮して実施すること。
- 2 中高一貫教育の内容は、「ゆとり」のある学校生活の中で、生徒の個性や創造性を大いに伸ばすという本旨にのっとり検討され、受験準備に偏したいわゆる「受験エリート校」化など、偏差値による学校間格差を助長することのないように十分に配慮すること。
- 3 中高一貫教育の導入は、中等教育を多様化し、生徒や保護者の選択の幅を広げることを趣旨とするものであることに鑑み、大学の入学者選抜方法については、その学習成果が生かされるよう工夫改善に努めること。
- 4 中高一貫教育を行う公立の学校では、入学者の決定に当たって学力試験を行わないこととし、学校の個性や特色に応じて多様で柔軟な方法を適切に組み合わせて入学者選抜方法を検討し、受験競争の低年齢化を招くことがないように十分に配慮すること。
- 5 いわゆる連携型の中高一貫教育については、その有機的連携を可能ならしめるように十分に検討すること。
- 6 各都道府県等においては、中高一貫教育の導入に際して、「中高一貫教育研究会議」等を通じて、幅広い関係者による協議を行い、一貫教育の内容、入学者の決定方法、通学区の設定など地域の実情等を踏まえたものとなるように努めること。
- 7 国は、中高一貫教育の推進に係る実践研究事業の一層の充実に努めること。
- 8 児童・生徒が中高一貫教育を行う学校を実質的に選択できることとなるように、設置者の意向を踏まえ、必要な財政措置を講ずること。
- 9 中等教育における選択の幅が広がることに伴い、児童、保護者に対して十分な情報提供を行うとともに、小学校における進路指導の在り方についても検討すること。
- 10 本法施行に伴う学校教育法施行規則その他政省令の改正に当たっては、中高一貫教育の導入の趣旨及び本委員会における審議を十分に踏まえ、これを行うこと。

右決議する。

## 札幌市の市立高校の概要

学校名	住 所	開校年月	学科等	1学年の 収容定員
旭丘高校	中) 旭ヶ丘6丁目	昭和33年4月 (平成13年8月校舎改築)	普通科 (単位制)	320名
開成高校	東) 北22条東21丁目	昭和37年4月 (昭和38年3月校舎建築)	普通科	240名
			コスモサイエンス科	80名
藻岩高校	南) 川沿3条2丁目	昭和48年4月 (昭和48年12月校舎建築)	普通科	320名
清田高校	清) 北野3条2丁目	昭和50年4月 (昭和51年12月校舎建築)	普通科	280名
			普通科 グローバルコース	40名
新川高校	北) 新川5条14丁目	昭和54年4月 (昭和54年3月校舎建築)	普通科	320名
平岸高校	豊) 平岸5条18丁目	昭和55年4月 (昭和55年3月校舎建築)	普通科	280名
			普通科 デザインアートコース	40名
啓北商業 高校	南) 石山1条2丁目	昭和16年4月 (昭和55年8月校舎改築)	未来商学科	240名
			商業科【定時制】 ※1	40名
大通高校 ※2	中) 北2条西11丁目	平成20年4月 (平成22年3月校舎建築)	普通科【定時制】 (3部制・単位制)	320名

※1 啓北商業の定時制課程は平成22年4月に大通高校の新校舎へ移転し、平成23年3月に閉課する予定です。

※2 大通高校は既存の市立高校4校(新川、平岸、星園、啓北商業)の定時制課程を発展的に再編した三部制・単位制の定時制高校であり、午前部4学級(1学級30名程度)、午後部4学級(1学級25名程度)、夜間部4学級(1学級25名程度)の少人数制を導入しています。



# 札幌市中高一貫教育校設置基本構想 概要版

(本書を6ページにわたり要約しています。)

# I 中高一貫教育校の設置について

## 1 中高一貫教育の制度

### ◆ 中高一貫教育制度の導入

現在の中学校・高校の制度に加えて、中等教育の一層の多様化を推進するものとして、学校教育法の改正により制度化され、選択的に導入することが可能となりました（H11.4より）。

### ◆ 中高一貫教育校の形態と特色

中高一貫教育校には、1つの学校として6年間一体的に中高一貫教育を行う中等教育学校（一体型）、高校の入学選抜を行わずに同一の設置者による中学校と高校を接続する併設型中学校・高校などがあります。一体型は併設型と異なり、他の中学校から高校段階への入学枠はありません。

※ 連携型という形態もありますが都市部には馴染まないと考えられます。

## 2 札幌市における検討経過

H15 「札幌市立高等学校教育改革推進計画」策定

→単位制や特色ある学科等の導入、新しいタイプの定時制高校の設置などとともに、中高一貫教育校の設置検討についても計画に位置付け。

H16 「札幌市教育推進計画」（主に義務教育段階における指針）策定

→中高一貫教育校の設置に向けて検討を進めることを記載。

H19 児童生徒・保護者アンケートの実施

→約70%の保護者が公立の中高一貫教育校に関心を示し、約58%の保護者が入学させたいと回答。

H20 「札幌市中高一貫教育検討協議会」設置

→H21.5に設置に向けた検討が望ましい旨の答申書をまとめる。

## 3 札幌市における中高一貫教育校設置について

### ◆ 中高一貫教育の特徴

○ 6年間を見通した柔軟な教育課程の編成を行うなどの「6年間を通した学びの連続性」

○ 幅広い異年齢集団で学習活動等ができるなどの「幅広い異年齢集団による学び合い」

○ 6年間を通して生徒を支援することができる「6年間にわたる見守り」

◆ 中高一貫教育の特徴を生かすことで、これまで以上に特色ある学習環境を提供することが可能であり、私立に加え公立の中高一貫教育校という新たな選択肢を提供することは、市立高校改革が目指す学びの場の更なる充実につながると考えます。

◆ 中高の教員が日常的に協力して教材研究や学習指導を行うことができる中高一貫教育校が、中学校と高校の橋渡しを行い、中高一貫教育校を含めた3者が、様々な成果を共有し、互いに高め合う取組を推進することで、札幌市の中等教育の一層の充実を図ることができると考えられます。

⇒ 以上のことから、札幌市立の中高一貫教育校を設置することとします。

※ なお、設置に当たっては、少子化の進展による中学校卒業生数の減少を考慮し、新たに学校を増設するのではなく、既存の市立高校の特色ある教育内容をベースに発展的に改編します。

## II 育てたい生徒像と改編対象校について

### 1 育てたい生徒像

- ◆ 6年間の連続した学びを生かして、札幌で学んだというアイデンティティを持ち、将来の札幌や日本を支え国際社会で活躍する知・徳・体のバランスのとれた「自立した札幌人」。

### 2 育てたい力とはぐくみたい心

#### ◆ 育てたい力（自立の基礎力）

課題発見・解決力、思考力・判断力・表現力、自らの将来を切り拓く力。

#### ◆ はぐくみたい心（札幌人）

札幌に愛着を持つ心、地域に貢献する気持ち、豊かな人間性、魅力ある個性、国際的な視野。

### 3 改編対象校選定の考え方【改編対象校：開成高校（コズモサイエンス科）】

- ◆ 中高一貫教育の特徴を生かすことで、「将来の札幌を支え国際社会で活躍する自立した札幌人」を育成することに加え、現在進めている特色ある教育内容が発展・充実する市立高校であることが条件であると考えます。

- ◆ 小学校卒業段階から入学してくる生徒の多様な進路希望を想定し、文系・理系を問わない多様な学びのできる教育内容をもつ高校であることが適当と考えます。

- ◆ 開成高校コズモサイエンス科は、実験・観察等を通して、論理的思考力や発信型の英語力を身につけ、文系・理系を問わず様々な分野で活躍する人材の育成を目指しており、中高一貫教育校に改編することで、自然科学をはじめ、社会科学や人文科学を表す広い意味の「サイエンス」を、より深くバランスよく学ぶことが可能です。

- ◆ 加えて、市内全域からのアクセスや施設整備の財政的観点からも適当です。

⇒ 以上のことから、改編対象校として最もふさわしいのは開成高校と考えます。

- ※ 校名や校歌の継承を含め、改編対象校の伝統を踏まえつつ、新しい学校づくりを進めていくことを考えています。

## III 中高一貫教育校の教育内容等

### 1 中高一貫教育の特徴を生かした教育内容

- ◆ 札幌市が設置する中高一貫教育校は、開成高校コズモサイエンス科の教育内容と中高一貫教育の特徴を融合させ、特色ある教育内容を実施することが可能であり、探究心に富んだ生徒やじっくり考えることが向いている生徒に対して、更に充実した学びの場の提供が可能です。

(1) 「6年間を通じた学びの連続性」を生かした取組

① 課題探究的な学習の発展・充実

6年間じっくりと課題探究的な学習に取り組むことができる環境を生かして、その中で発信型の英語力の活用を図りながら、課題探究的な学習全般の発展・充実を図ります。

② 進路探究学習の更なる推進

地域の人材や団体などと連携したインターンシップをはじめとする体験的活動を含め、6年間を見通した系統的、計画的な進路探究学習プログラムを構築することにより、学ぶ意欲の向上や、自らの将来の社会的自立や生き方を主体的に考え、自らの将来を切り拓く力を育てます。

③ 札幌を教材とした学び

発達段階に応じた、「札幌らしい特色ある学校教育」の3テーマ（雪・環境・読書）を教材とする学習や地域の教育資源の活用、地域活動への参加等により、「ふるさと札幌」への愛着と札幌人としてのアイデンティティを醸成するとともに、地域に貢献する気持ちをはぐくみます。

(2) 「幅広い異年齢集団による学び合い」を生かした取組

① 特別活動等における異年齢集団による活動の重視

学校行事などの特別活動や部活動において、幅広い異年齢集団による活動を重視することにより、生徒の主体性やリーダーシップ等を育て、豊かな人間性をはぐくみます。

② 異年齢集団による学び合いによる学習意欲の向上

高校段階の生徒が中学校段階の生徒にアドバイスや支援をするなどの「教え」「教えられる」場を設定することにより、理解を深めることや責任感をはぐくむとともに、身近な目標として上級生の活動に触れることにより、生徒の学習意欲の向上を図ります。

(3) 「6年間にわたる見守り」を生かした取組

生徒が試行錯誤を繰り返しながら学び、成長していく過程を、中高の教員が6年間継続して見守ることにより、生徒一人ひとりの長所や個性を発見し、より伸ばすことができます。

2 発達段階に応じた指導区分の設定及び単位制の導入

◆ 中高一貫教育は、中学校3年と高校1年の接続に意義があることから、6年間の発達段階に応じて、基礎期、充実期、発展期の3段階の指導区分を設定します。

◆ 高校段階から単位制を導入し、特に発展期において、大幅な科目選択を可能とし、生徒の多様な興味・関心等に対応します。

高校段階	6年生	★ <b>発展期</b> ○ 4年間の学びを踏まえ、より高度な課題探究的な学び ○ 単位制を活用し、学びの多様化や進路の多様化に対応
	5年生	
中学校段階	4年生	★ <b>充実期</b> ○ じっくりと腰を据えた課題探究的な学び ○ 中高の継続性を生かした学習活動の展開
	3年生	
	2年生	★ <b>基礎期</b> ○ 基礎・基本の習得 ○ 実験・観察等の学習手法の体得 ○ 先輩たちとの学びによる学習意欲の向上
	1年生	

### 3 他の中学校・高校との教育成果の共有

- ◆ 中高一貫教育校においては、中学校教員と高校教員が日常的に協力しながら教材研究や学習指導を行うことにより、中高の連続性を意識した実践研究が可能です。
- ◆ 中高一貫教育校が中学校と高校の橋渡しを行い、中高一貫教育校を含めた3者が、様々な成果を共有することで札幌市の中等教育の一層の充実を図ることができます。

### 4 魅力ある学校づくりに向けた取組

- ◆ 相互に授業を持つことも含めた、中・高教員一体となった学校運営。
- ◆ ゲストティーチャーを招いての授業など、地域の教育力の活用。
- ◆ 最先端の学問研究など「ほんもの」に触れる機会を提供するなどの、大学等との連携。
- ◆ ネイティブスピーカーの活用、海外見学旅行、交換留学など、異文化交流の機会の充実。

## IV 中高一貫教育校設置の枠組

### 1 設置形態 : 中等教育学校 (一体型)

- ◆ 生徒全員に対して共通した教育課程で系統的、継続的な指導が可能であり、6年間の積み上げ効果を最大限発揮できます。(学習面)
- ◆ 高校段階からの入学枠がない一体型は、6年間にわたってじっくり生徒の成長を見守り育てるという利点を全ての生徒が享受できます。(生活面)
- ◆ 中高の教員が一体となった学校運営を行いやすいという特徴があります。(学校運営面)

### 2 学校規模 : 1 学年 4 学級 (総学級数 24 学級)

- ◆ 中高一貫教育のメリットを最大限生かすためには、中学校部分と高校部分の一体的な学校運営ができ、生徒全体を把握できる学校規模とすることが重要です。
- ※ 札幌市における適正規模は、中学校 1 学年 4～6 学級、高校 1 学年 4～8 学級。
- ※ 全国で既に設置されている国公立の中等教育学校 32 校においても、総学級数 24 を超えるところはありません。

### 3 通学区域 : 札幌市内

- ◆ 中高一貫教育を望む市内の児童に対して公平に入学の機会を提供するため札幌市内とします。

### 4 開校時期 : 平成 27 年度

- ◆ 高校部分については、現行 1 学年 8 学級から 4 学級に学級数が減少することから、学級減の影響を緩和するため、開校時期は中学校卒業者が大きく減少する時期が適当です。

＜参考＞札幌市内の中卒者推移（北海道教育委員会調べ）

年度	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
中卒見込数	16,348	17,060	16,204	16,363	16,147	16,145	15,677	15,531	15,753
前年比増減	▲460	+712	▲856	+159	▲216	▲2	▲468	▲146	+222

※ 平成25年度までは、北海道教育委員会により「公立高等学校配置計画（平成23～25年度）」が策定されており、高校の学級数の増減に関する見込みが示されています。

※ 住民基本台帳を基にした札幌市の人口統計によると平成30年度以降も少子化の進行が見込まれています。

5 入学者の決定方法

- ◆ 学力検査を行わず、適性検査、作文、面接、調査書、抽選など複数の方法の中から選択のうえ、適切に組み合わせて実施することとし、受験競争の低年齢化を招かないよう留意します。今後詳細に検討し、開校前年度までに公表します。
- ◆ 入試日程については、私学関係団体と話し合いを行うなど、関係機関と調整のうえ、決定することを考えています。

6 中高一貫教育校設置に伴う移行期間

- ◆ 一体的な学校運営体制を確立することや幅広い異年齢集団による学び合い等の中高一貫教育の効果を可能な限り早期に発揮することなどを目的に、平成27年度～29年度の3年間のみ、高校段階からの入学生を、中等教育学校後期課程の生徒として募集します。
- ◆ 移行期間における後期課程入学生についても、前期課程同様、通学区域は札幌市内とします。

＜参考＞中高一貫教育校移行期間

				27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
中学校	1年	中等教育学校	1年	4	4	4	4	4	4
	2年		<del>4</del>	4	4	4	4	4	
	3年		<del>4</del>	<del>4</del>	4	4	4	4	
高校	1年	4年	4	4	4	4	4	4	
	2年	5年	8	4	4	4	4	4	
	3年	6年	8	8	4	4	4	4	
学校規模				24	24	24	24	24	24

- 中等教育学校の前期課程（中学校段階）からの入学生
- 中等教育学校の後期課程（高校段階）からの入学生
- 開成高校生

※ 表の数字は学級数を表す（1学級当たり40名の場合）

## V 中高一貫教育校の施設整備の考え方

### 1 施設整備の基本的な考え方

- ◆ 改編対象校である開成高校の校舎は老朽化が進んでいることから全面改築で整備します。

### 2 開校までの施設整備のスケジュール（予定）

- ◆ 平成23年度 : 施設整備に係る基本計画の策定
- ◆ 平成24年度 : 基本設計・実施設計
- ◆ 平成25年度 : 新校舎建築工事着工
- ◆ 平成26年度 : 新校舎竣工（平成27年4月開校予定）
- ◆ 平成26～27年度 : 既存校舎の解体、グラウンド造成

※ 上記スケジュールは、基本設計等を行う中で変更の可能性があります。

## VI 課題・留意点への対応等

### 1 課題・留意点への対応

#### ◆ 受験競争の低年齢化への懸念

入学者の決定方法については、学力検査を行わず、適性検査、面接、抽選等を適切に組み合わせ、受験競争の低年齢化を招かないよう留意します。

#### ◆ 受験準備に偏した教育への懸念

実験・観察・体験等を重視する学習を想定し、受験準備に偏したカリキュラムは想定していません。

#### ◆ 生徒集団の固定化への対応と進路変更の保障

相談体制の充実に加え、他の高校への進学の道も保障します。

#### ◆ 心身発達の差異の大きい生徒への対応

中高教員の連携を促す取組や施設整備を行います。

#### ◆ 小学校卒業段階の進路選択の困難性（多様な進路希望）

中高一貫教育校の特性を十分周知するとともに、多様な進路希望に対応します。

#### ◆ “中だるみ”への対応

生徒が興味を持って取り組める学習の場を提供し、高い意欲を持続させます。

#### ◆ 中学校段階におけるリーダーシップの育成

原則、6年間一体的な活動を基本とするが、発達段階に応じたリーダーシップの育成を考慮し、中学校段階・高校段階別々の活動も工夫します。

### 2 今後の進め方

- ◆ 今後学校づくりに向けて具体的な検討を進め、適切な時期に説明会を開くなど情報提供を行っていきます。

### 3 評価と検証

- ◆ 中高一貫教育校の設置後、教育効果について十分に評価・検証を行います。



---

札幌市中高一貫教育校設置基本構想

平成23年（2011年）4月発行



さっぽろ市  
01-S02-10-1554  
22-1-115

編集・発行 札幌市教育委員会学校教育部教育推進課企画担当  
〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 STV 北2条ビル  
電話 (011) 211-3838 FAX (011) 211-3852

---